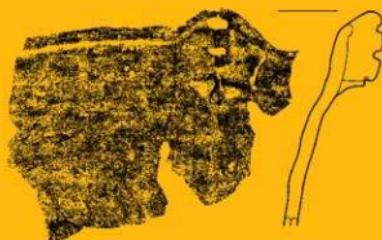


坏 遺 跡

(第36地点2次)

—クリニック建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2020

水戸市教育委員会
医療法人山口クリニック
宗教法人鹿島神社
株式会社ラク

口絵写真1



調査区完掘状況（南西より）

口絵写真2



調査区完掘状況（南東より）

口絵写真3



2号土坑遺物出土状況（西より）

口絵写真4

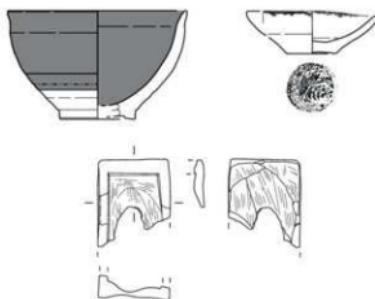


3号土坑遺物出土状況（北より）

坏 遺 跡

(第36地点2次)

—クリニック建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2020

水 戸 市 教 育 委 員 会
医療法人 山 口 ク リ ニ ツ ク
宗 教 法 人 鹿 島 神 社
株 式 会 社 ラ ク 口

ごあいさつ

水戸市河和田に所在する坪遺跡は、桜川を南に望む、風光明媚な台地上に位置しております。

本遺跡では、平成8年2月に、共同住宅建設に伴い最初の発掘調査が実施されました。この時の調査では、わずかな調査面積にも関わらず、多量の縄文時代中期の土器とともに多くの竪穴建物跡や貯蔵穴が検出され、水戸市を代表する縄文時代の集落遺跡であることが判明いたしました。

また、坪遺跡の周辺においても、高天原遺跡・高天原古墳群・若林遺跡・赤塚遺跡・赤塚古墳群など、旧石器時代から奈良・平安時代までの多くの遺跡が分布しており、さらに、桜川の対岸には、本市の代表的な中世城館である河和田城跡が存在することが知られています。このように河和田の地は、旧石器時代から現代まで絶え間ない無数の人々の営みに立った、豊かな歴史的景観を有する場所であると言えましょう。

近年、赤塚駅周辺や見和地区の市街地化に伴い、遺跡周辺においても開発が増加しつつあります。埋蔵文化財は開発により一度破壊されると二度と原状に戻すことはできません。そのため先人の営みを尊重し、歴史的景観を生かしたまちづくりの推進が望まれるところであります。

本書は令和2年4月にクリニック・薬局建設工事に伴い実施した発掘調査の報告書です。調査では、縄文時代および中世を中心とした遺構・遺物が検出され、坪遺跡の範囲や性格について重要な成果を得ることができました。

本書が学術研究資料として充分に活用されるとともに、市民の皆様が文化財保護への関心を深められ、また郷土の歴史を再認識されるきっかけとなればこれに勝る喜びはありません。

最後になりましたが、発掘調査の実施および本書の刊行にあたり、事業者の医療法人山口クリニックをはじめ、宗教法人 鹿島神社総代、地域住民の皆様には多大なご理解とご協力を賜りました。末筆ながら心から感謝申し上げ、ごあいさつの言葉といたします。

令和2年9月

水戸市教育委員会

教育長 志 田 晴 美

例　　言

1. 本書は、水戸市河和田内におけるクリニック建設工事に伴い実施した、坏遺跡第36地点2次の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は医療法人 山口クリニック・宗教法人 鹿島神社の委託を受けた株式会社ラクロが、水戸市教育委員会の指導のもとに実施した。

3. 調査概要及び調査組織は以下の通りである。

所 在 地 茨城県水戸市河和田1丁目1640-1外

調査面積 246 m²

調査期間 令和2年4月7日～令和2年4月28日

4. 発掘調査組織は下記の通りである。

調査担当者 小久顕治（株式会社ラクロ）

事 務 局

本多清峰（水戸市教育委員会教育長・～令和元年10月4日まで）

志田晴美（水戸市教育委員会教育長・令和元年12月27日から）

増子孝伸（水戸市教育委員会事務局教育部長）

白石嘉亮（水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課長）

川口武彦（水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター所長）

米川暢敬（同主幹）

新垣清貴（同主幹）

廣松滉一（同文化財主事）

太田勇陽（同文化財主事）

丸山優香里（同埋蔵文化財専門員）

松浦史明（同埋蔵文化財専門員）

外山綾乃（同埋蔵文化財専門員・～令和2年5月30日まで）

有田洋子（埋蔵文化財センターアイドリーチャンネル会員）

昆 志徳（同会員）

庄司 優（同会員）

5. 調査参加者

（発掘調査）阿久津昇 黒須秀昭 源田正枝 三浦一鷹 村上巧兒

（整理作業）飯塚恵津子 今井千恵 片桐 恵 川崎華奈子 小池恵美子 重田恵子

渋谷 順 對馬むつみ 林 玲佳 林龍之介 宮本カツヨ

6. 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、一括して水戸市埋蔵文化財センター（大串貝塚ふれあい公園）にて保管している。

7. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不同）。

医療法人 山口クリニック 宗教法人 鹿島神社

株式会社K建築設計事務所 佐々木藤雄 タクミティック

茨城県教育庁文化課

凡　　例

1. 測量は世界測地系座標を用い、挿図中の方位は真北を示す。
2. 挿図中で使用した遺跡の略記号は以下を示す。

S I : 壁穴建物跡 S P : 壁穴建物跡内ピット S D : 槽跡 S E : 井戸跡
F P : 屋外炉 S K : 土坑 P : ピット T P : テストピット K : 攪乱
3. 土層及び断面図に記した数値は標高を示す。

遺構の形態・規模は基本的に現状の掘削した状態で判断した。計測は壁上端で行った。深さは検出面の最も高い位置から遺構内の最も低い位置まで測り、遺構内施設の深さは床・底面の位置から計測している。
4. 掲載した図面の基本縮尺は、以下の通りである。

調査区全体図 1 / 120 遺構平面図・断面図 1 / 60・1 / 30
遺物図 原則として 1 / 3 を原則とするが、黒曜石のみ 1 / 1 とした。
5. 遺構の土層及び遺物の色調表現は、『新版標準土色帖』2008年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。また、土層説明中のローム粒子は土色帖中の粒状構造の極小以下である。
6. 遺物観察表に付した（）は復元値、<>は残存値として表す。遺物の計測値は規模を「cm」、重量を「g」で表した。
7. 写真図版は、実測図の縮尺に合わせて掲載した。また遺物番号は本文、挿図、写真図版と一致する。
8. 遺構・遺物実測図中のスクリーントーンおよび記号は、以下に示すとおりである。

■ 焼土	■ 赤化部分（遺構断面）	□□□ カクラン	□□□ 推定線
■ 煤	■ 軸	■ 須恵器	
9. 「主軸」はカマドを持つ壁穴建物跡についてはカマドを通る軸線とし、他の遺構については、長軸（長径）とみなした。また、「主軸（長軸）方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示している。

（例 N - 10° - W）
10. 本遺跡の略号は 201-015-036-2 である。遺物の注記もこれに従っている。

目 次

ごあいさつ	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査に至る経緯と調査経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 発掘作業の経過.....	2
第3節 整理作業の経過.....	2
第2章 遺跡の位置と環境.....	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第3節 坑遺跡における既往の調査.....	8
第3章 調査の成果.....	11
第1節 遺跡の概要.....	11
第2節 基本層序.....	11
第3節 遺構と遺物.....	13
(1) 堅穴建物跡.....	13
(2) 溝跡.....	16
(3) 井戸跡.....	18
(4) 屋外炉.....	20
(5) 土坑.....	20
(6) ピット.....	35
(7) 表土・遺構外出土遺物.....	41
第4章 総括.....	45
参考文献.....	48
写真図版	
報告書抄録・奥付	

挿図目次

第1図 調査区位置図.....	3	第17図 2号土坑出土遺物（2）.....	28
第2図 坑遺跡と周辺の遺跡位置.....	4	第18図 3号土坑出土遺物（1）.....	30
第3図 坑遺跡の範囲と 既往の調査地点位置図.....	9	第19図 3号土坑出土遺物（2）.....	31
第4図 全体遺構分布図.....	12	第20図 3号土坑出土遺物（3）.....	32
第5図 基本層序図.....	13	第21図 3号土坑出土遺物（4）.....	33
第6図 1号竪穴建物跡（1）.....	14	第22図 11号土坑出土遺物.....	34
第7図 1号竪穴建物跡（2）.....	15	第23図 13号土坑出土遺物.....	35
第8図 1号竪穴建物跡出土遺物.....	16	第24図 ピット分布図.....	36
第9図 1号溝跡.....	17	第25図 ピット（1）.....	37
第10図 1号溝跡出土遺物.....	18	第26図 ピット（2）.....	38
第11図 1号井戸跡.....	19	第27図 ピット（3）.....	39
第12図 1号井戸跡出土遺物.....	19	第28図 ピット（4）.....	40
第13図 1号屋外炉.....	20	第29図 ピット（5）.....	41
第14図 土坑（1）.....	25	第30図 ピット出土遺物.....	41
第15図 土坑（2）.....	26	第31図 遺構外出土遺物（1）.....	42
第16図 2号土坑出土遺物（1）.....	27	第32図 遺構外出土遺物（2）.....	43

表目次

第1表 坑遺跡と周辺遺跡一覧（1）.....	5	第11表 3号土坑出土土器属性一覧（1）..	33
第2表 坑遺跡と周辺遺跡一覧（2）.....	6	第12表 3号土坑出土土器属性一覧（2）..	34
第3表 坑遺跡の既往の調査一覧.....	10	第13表 3号土坑出土石器属性一覧.....	34
第4表 1号竪穴建物跡出土土器属性一覧.	16	第14表 11号土坑出土石器属性一覧.....	34
第5表 1号竪穴建物跡出土石器属性一覧.	16	第15表 13号土坑出土土器属性一覧.....	35
第6表 1号溝跡出土土器属性一覧.....	18	第16表 13号土坑出土石器属性一覧.....	35
第7表 1号井戸跡出土土器属性一覧.....	20	第17表 ピット出土土器属性一覧.....	41
第8表 1号井戸跡出土石器属性一覧.....	20	第18表 遺構外出土土器属性一覧.....	43
第9表 2号土坑出土土器属性一覧.....	29	第19表 遺構外出土石器属性一覧.....	43
第10表 2号土坑出土石器属性一覧.....	29	第20表 遺物計量表.....	44

写真図版目次

- 口絵写真1 調査区完掘状況（南西より）
- 口絵写真2 調査区完掘状況（南東より）
- 口絵写真3 2号土坑遺物出土状況（西より）
- 口絵写真4 3号土坑遺物出土状況（北より）
- 図版1 調査区北側完掘状況、調査区南側完掘状況、1号竪穴建物跡完掘状況、1号竪穴建物跡土層断面、1号竪穴建物跡1～3号ピット完掘状況
- 図版2 1号竪穴建物跡4～11号ピット完掘状況
- 図版3 1号竪穴建物跡12～20号ピット完掘状況
- 図版4 1号竪穴建物跡21号ピット完掘状況、1号竪穴建物跡掘り方土層断面、1号溝跡北側完掘状況、1号溝跡南側完掘状況、1号溝跡土層断面
- 図版5 1号土坑完掘状況、1号土坑土層断面、2号土坑完掘状況、2号土坑土層断面、3号土坑完掘状況、3号土坑土層断面、4号土坑完掘状況、4号土坑土層断面
- 図版6 5号土坑完掘状況、5号土坑土層断面状況、6号土坑完掘状況、6号土坑土層断面、7号土坑・1・3・4・29・50号ピット完掘状況、7号土坑・1号ピット土層断面、8号土坑完掘状況、8号土坑土層断面
- 図版7 9号土坑土層断面および完掘状況、10号土坑完掘状況、10号土坑土層断面、11号土坑完掘状況、11号土坑土層断面、12号土坑土層断面および完掘状況、13号土坑完掘状況、13号土坑土層断面
- 図版8 1号井戸跡土層断面および完掘状況、1号屋外炉完掘状況、1号屋外炉土層断面、6・13・15・24・25号ピット完掘状況
- 図版9 26・27・29～31・34・36・37・39・45・49号ピット完掘状況、テストピット土層断面
- 図版10 1号竪穴建物跡出土遺物、1号溝跡出土遺物、1号井戸跡出土遺物、2号土坑出土遺物（1）
- 図版11 2号土坑出土遺物（2）
- 図版12 2号土坑出土遺物（3）、3号土坑出土遺物（1）
- 図版13 3号土坑出土遺物（2）
- 図版14 3号土坑出土遺物（3）
- 図版15 11号土坑出土遺物、13号土坑出土遺物、ピット出土遺物、遺構外出土遺物（1）
- 図版16 遺構外出土遺物（2）

第1章 調査に至る経緯と調査経過

第1節 調査に至る経緯

令和元年11月24日付けで、診療所及び薬局建設に伴い、株式会社K建築設計事務所雨澤太一から水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」（教理第917号）の照会があった。

照会地である水戸市河和田一丁目1640-1の一部、1640-2の一部、1641-1の一部地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地「堺遺跡」の範囲内に該当しており、周辺での既往の調査においても埋蔵文化財の分布が多く確認されているため、令和元年12月18日から令和2年1月8日にかけて市教委は試掘調査を実施した（堺遺跡第36地点第1次調査）。試掘調査の結果では中世以降の土坑5基、ピット3基、性格不明遺構3基が確認された。

令和2年1月21日付け（教理第949号）により市教委は山口クリニック理事長 山口哲（以下「事業者」）あて試掘調査結果の回答を提出した。

市教委は、文化財保護法（以下「法」という。）第93条第1項の規定により茨城県教育委員会教育長あて届出の必要があること、遺跡の発掘調査を必要とする際には原因者の協力を必要とすると回答した。

市教委は事業者と設計変更を目的として協議を図ったが、申請地内での伐根が伴うことから、建物部分及び人工透析処理施設部分については設計変更が困難であるとの結論に達し、原因者の費用負担による記録保存を目的とし、事前の本発掘調査を行うことで合意が図られた。

その後、令和2年2月26日付で事業者から当該地におけるクリニック・薬局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。

このような状況を踏まえ、市教委は令和2年2月26日付け教理第950号にて、茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて、法第93条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を進達した。これを受け、県教委教育長から令和2年3月2日付け文第3576号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果、重要な遺構等が確認された場合にはその保存等について別途協議をする旨、勧告があった。

これを受けて事業者は、令和2年3月7日に株式会社ラクロ（以下「調査機関」という。）と発掘調査業務委託契約を締結するとともに、調査機関及び市教委と発掘調査実施に係る協定を締結した。調査機関は法92条第1項の規定により、令和2年3月12日付け「埋蔵文化財発掘調査の届出について」（教理第1302号）を県教委教育長あて提出し、その後県教委教育長から調査機関へ令和2年3月24日付け文第3880号「埋蔵文化財の発掘調査について（通知）」にて、適切に発掘調査を実施するよう指示があった。

以上のような経過のもと、当該調査を堺遺跡第36地点第2次調査として、令和2年4月7日から令和2年4月30日にかけて発掘調査を実施することとなった。

（新垣）

第2節 発掘作業の経過

調査区の座標は公共座標を基準に設定した。

発掘調査は、試掘調査の結果をもとに 248 m²の調査区を設定して実施した。表土除去は重機を用いて表土層を除去した後は、ジョレンなどを用いて人力で遺構確認を行った。遺構の掘削は移植ゴテなどを用いて行っている。遺構内出土遺物については、層位や遺物の特徴などを基準として原則光波測量機を用いて 3 次元記録を実施している。また、遺構については、遺構断面については手実測、平面については光波測量機を用いて測量を行っている。写真撮影にあたってはデジタルカメラ(2,000 万画素)を使用し、適宜、記録撮影を行った。

第3節 整理作業の経過

発掘調査は令和 2 年 4 月 7 日より開始した。7 日は資材の搬入および重機による表土掘削を北側から行った。翌 8 日に表土掘削は完了し、遺構掘削を行っている。調査区北側でピットが集中する部分に堅穴建物跡の床面が破壊され検出されたことから堅穴建物跡が 1 軒存在すると判明している。遺構掘削は 22 日まで行い、23 日から 25 日に全体の測量や清掃、写真撮影を行った。27 日に旧石器時代の確認および基本土層の確認のためのテストピットを掘削、作図して 28 日に埋め戻しを行い発掘調査は終了した。

報告書作成は 5 月 1 日より開始した。遺物は洗浄作業、機械と人力による注記作業、接合作業は 5 月 15 日に完了して、実測遺物の抽出、作図、拓本などの作業を 5 月 30 日まで行っている。並行して遺構図や文章は基礎的な整理を 6 月 22 日まで行い、遺構図修正と並行して文章の作成を 6 月 26 日まで行っている。その後 6 月 26 日から編集作業 DTP ソフトウェアを用いて編集、水戸市教育委員会の校正などを行い、12 月 28 日に刊行に至っている。

(小久)

第2章 遺跡の位置と環境

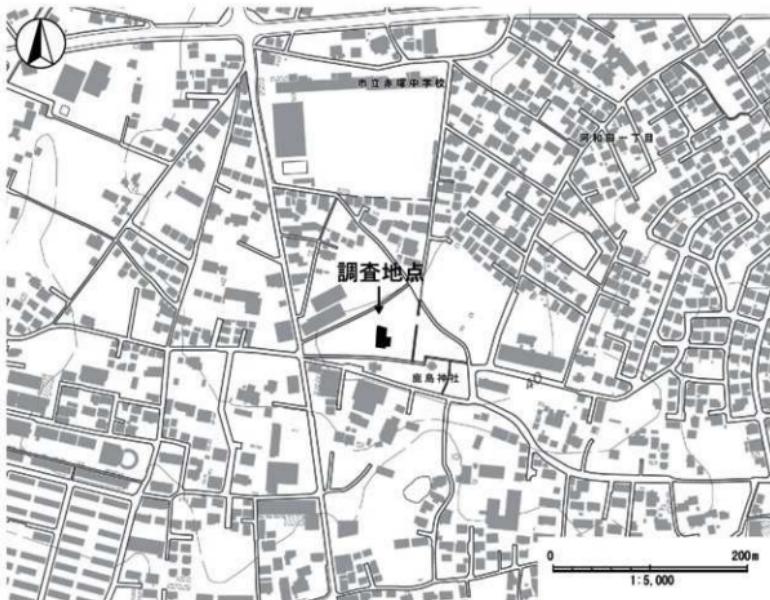
第1節 地理的環境

茨城県の中央部に位置する水戸市は、北には那珂川から千波湖以東に広がる沖積低地と、通称上市台地や見和台地などと呼称される洪積台地（以下より見和台地）である東茨城台地から連続する水戸台地および、市域の北西側が中心の八溝山地で構成されている。

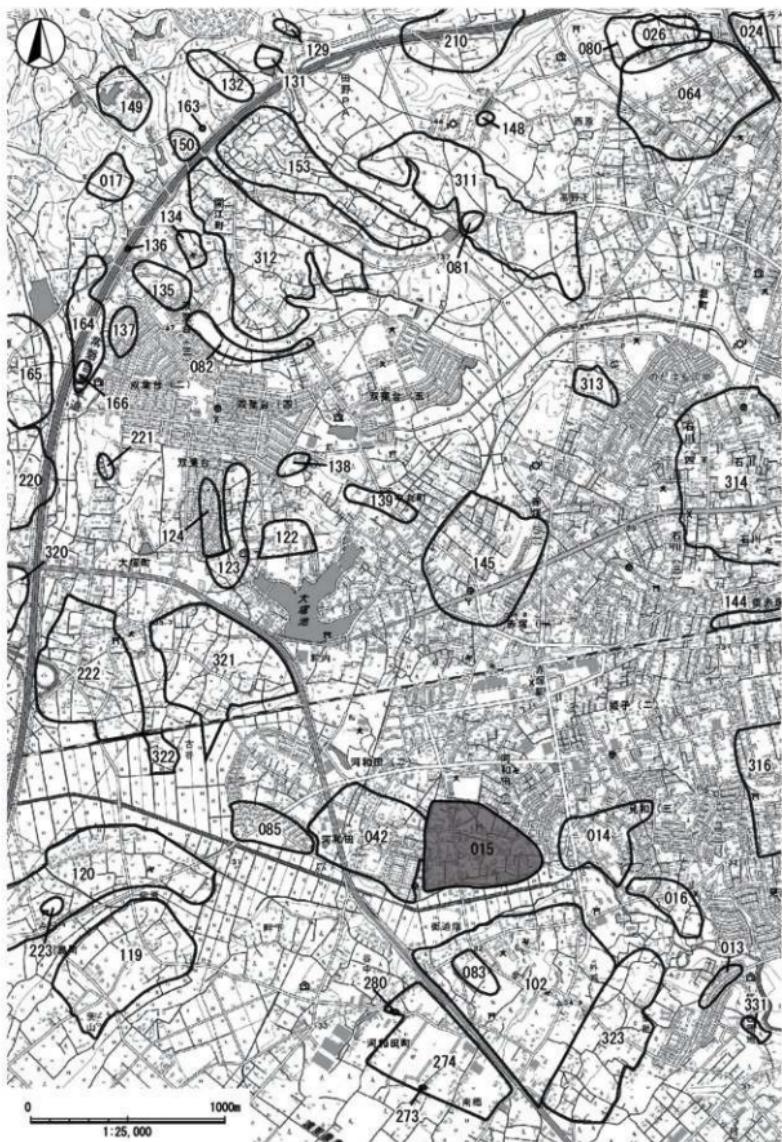
本調査地点が位置する坪遺跡は、桜川左岸の標高30～38mの見和台地縁辺部に立地する。この台地上は縄文時代の集落が数多く確認されていることから、縄文時代から比較的安定した住環境であったと思われる。

第2節 歴史的環境

水戸市は先土器時代から近世、近代に至る多くの遺跡が分布する地域として知られている。以下では、今回調査を実施した坪遺跡が立地する桜川の北岸、見和台地を中心に周辺遺跡を概観する（第1図）。



第1図 調査区位置図（国土地理院発行1:50,000「水戸」に加筆）



第2図 坏遺跡と周辺の遺跡位置 (茨城県遺跡地図 1:25,000「水戸」に加筆)

第1表 坑遺跡と周辺遺跡一覧（1）

遺跡番号	遺跡名	種別	遺物	備考
013	見和遺跡	集落跡		溝誠
014	高天原遺跡	集落跡	縄文土器（早・中・晩），弥生土器（後），土師器（古）	S59～60年度発掘調査
015	坪遺跡	集落跡	縄文土器（中・後），土製円盤・石鏃・磨石・鐵石・圓石・石皿・砾石・削片（縄文），弥生土器（後），土師器（古），青白磁・陶器・土師質土器皿，内耳土器（中世），砥石（近世）	H08・18・23～25年度発掘調査
016	若林遺跡	集落跡	縄文土器（中）・石鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石・鐵石・圓石・石皿・台石・削片（縄文），須恵器（奈・平）	H21・23年度発掘調査
017	一本松遺跡	集落跡	尖頭器（縄文草創），縄文土器（早・中），土師器・須恵器（古）	旧開江遺跡
024	アラヤ遺跡	集落跡		H01・19・22・23年度発掘調査
026	西原遺跡	集落跡		H26年度発掘調査
042	赤塚遺跡	集落跡	削器・台形様石器・ナイフ形石器・尖頭器・鍤器・削片（先），縄文土器（前～晩），石鏃（縄文），弥生土器（中・後），土師器（古・奈・平），藏骨器（平），土玉（古），磁器（近世）	S57・H22年度発掘調査
064	福遺跡	集落跡	弥生土器（後），土師器・須恵器（古・奈・平）	円1・H05～06・19～22・24・26・R02年度発掘調査
080	西原古墳群	古墳群		
081	福町西古墳群	古墳群	縄文土器（中），鐵石・磨製石斧・石鏃・土製円盤・土器片鏃（縄文），土師器・刀子・铁斧（古），須恵器・土玉・刀子（奈・平），錢貨（近世）	H20年度発掘調査 円2、方1
082	下荒句古墳群	古墳群		円2(20?)
083	街道端古墳群	古墳群		円0(3) 消滅
085	赤塚古墳群	古墳群	土師器・円筒埴輪・形象埴輪・直刀・長茎鐵	S46年度発掘調査，前方後円3 円12、方19(そのうち方形周溝3 18)
102	河和田城跡	城館跡		H12・24～27・29～31・R01・02 年度発掘調査
119	飯島向原遺跡	集落跡	弥生土器（後），土師器（古）	
120	仙光内遺跡	集落跡	弥生土器（後），土師器（古前～後・奈・平）	
122	池上遺跡	集落跡	土師器・須恵器（奈・平）	
123	清水遺跡	集落跡	石刀（縄文草創），縄文土器（前），弥生土器（後），土師器・瓦（古・平）	H30年度発掘調査
124	釜久保遺跡	集落跡	弥生土器（後），土師器（古前・奈・平）	溝誠
129	三ツ児塚古墳群	古墳群		円墳4
131	椎農遺跡	集落跡		
132	山田遺跡	集落跡	縄文土器（中），弥生土器（後），須恵器	
134	金剛寺遺跡	集落跡		
135	寺山遺跡	集落跡	縄文土器（中），土師器・須恵器（古）	溝誠
136	峯山古墳	古墳	土師器（古）	円1 溝誠
137	向原遺跡	集落跡	尖頭器（先），縄文土器（前），弥生土器（中・後），土師器（古）	S48年度発掘調査
138	北原古墳群	古墳群		円2(2) 一部溝誠

第2表 坏遺跡と周辺遺跡一覧（2）

遺跡番号	遺跡名	種別	遺物	備考
139	北原遺跡	集落跡	縄文土器・土師器（古）、須恵器	
144	宮西遺跡	集落跡		
145	滝見遺跡	集落跡	縄文土器（前・中）、土師器（古）	消滅
148	山田A古墳群	古墳群		円2(4)
149	全隈権現台遺跡	集落跡	縄文土器（前・中）	消滅
150	大久保遺跡	集落跡	土師器（古）	
153	開江宿原跡	集落跡	土師器・須恵器（奈・平）	
163	大久保古墳群	古墳群		円0(3)
164	毛勝谷原遺跡	集落跡	弥生土器（古）、土師器（古前）	
165	加倉井原遺跡	集落跡		
166	毛勝谷原古墳群	古墳群		円1(3)
210	仲根遺跡	集落跡		
220	松原遺跡	集落跡	打製石斧・石刀・石鏽（縄文苗剣）、縄文土器（後）、弥生土器（後）、土師器（古前・後、奈・平）、石製品・土製品・石製切子玉（古）	S54年度発掘調査
221	稲荷塚古墳群	古墳群	縄文土器・削片・弥生土器・円筒埴輪・勾玉・土師器・須恵器	円3、R01年度発掘調査
222	大塚新地遺跡	集落跡	弥生土器（後）、土師器（古前・奈・平）、勾玉・石製品・土製品・鉄製品・木製品	S54年度発掘調査
223	飯島町古墳群	古墳群		円3
273	淡島神社経塚	塚	内耳土器・陶磁器・磁器・錢貨（近世）	
274	経塚遺跡	包藏地	土師質土器皿・陶器・内耳土器（中世）	
280	街道端安宕神社塚	塚	土師器	
311	高野下遺跡	包藏地		
312	開江南遺跡	包藏地		
313	野田原遺跡	包藏地		
314	西堰原遺跡	包藏地		
316	見和二丁目遺跡	包藏地		
320	松山東遺跡	包藏地		
321	大塚新地遺跡	包藏地		
322	榎戸北遺跡	包藏地		
323	桜川西遺跡	包藏地		S25・30・R01年度発掘調査
331	丹下一ノ牧野馬土手跡	野馬土手		R21年度発掘調査

(1) 先土器時代～縄文時代草創期

本遺跡では、これまでのところ当該期の遺構や遺物の分布は確認されていないが、西隣りに位置する赤塚遺跡（042）では数次にわたる調査が行われ、武藏野台地Ⅲ層およびⅦ層に相当する石器集中地点や炭化物集中地点、尖頭器、ナイフ形石器、台形様石器、搔器などの分布が確認されている。また、一本松遺跡（017）や清水遺跡（123）、松原遺跡（220）では安山岩製の石斧や削器、尖頭器などが出土し、縄文時代草創期の長者久保・神子柴石器群との関連が指摘されている。

(2) 縄文時代

本遺跡でもっとも多くの遺構や遺物が確認されている時期であり、縄文時代中期前～中葉を中心に竪穴建物跡、貯蔵穴と思われる袋状土坑、陥し穴、および阿玉台式土器、加曾利E式土器、大木式土器、後期の称名寺式土器、堀之内式土器、綱取式土器などが検出されている。さらに本遺跡の東側に位置する高天原遺跡（014）では、阿玉台Ⅲ～加曾利EⅡ式土器を伴う竪穴建物跡や大木8b式土器を伴う袋状土坑が検出されており、前出の赤塚遺跡でも前期後半の浮島・興津式土器や晩期の土器が出土している。さらに高天原遺跡の東方に位置する若林遺跡（016）では、平成21年に行われた調査で、阿玉台式期の竪穴建物跡や屋外炉の他に、密集分布する阿玉台～加曾利E式期の袋状やプラスコ状土坑多数が検出されている。以上の遺跡の多くは時間・内容とも際立った共通性をみせており、見和台地縁辺部における中期前葉～後葉の土地利用がきわめて活発であったことを示している。

(3) 弥生時代～奈良・平安時代

本遺跡では第1地点で古墳時代の竪穴建物跡、第14地点の調査で古墳時代の竪穴建物跡、溝跡、奈良・平安時代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡などが確認されている。

弥生時代の遺跡としては前出の高天原遺跡や清水遺跡、飯島向原町遺跡（119）、仙光内遺跡（120）、向原遺跡（137）、大塚新地遺跡（222）などがあげられる。特に大塚新地遺跡では弥生時代後期の竪穴建物跡や土坑が多数検出され、当該期の拠点的集落を形成していた可能性が指摘されている。1基だけであるが、中期に属する壺棺墓の発見も注目される事例である。さらに向原遺跡でも中・後期の竪穴建物跡の分布が確認されている。

古墳時代の遺跡は多彩であり、本遺跡の西側に赤塚古墳群（085）、北西側に北原古墳群（138）や稻荷塚古墳群（221）、桜川を挟んだ対岸に飯島町古墳群（223）などが分布する。開発のために旧状をとどめないものが多いが、赤塚古墳群では谷津を隔てて前方後円墳3基、円墳12基、方墳1基、方形周溝墓18基が確認されている。現存する前方後円墳は2基であるが、いずれも埴輪を伴い、墳丘の長さは30mを超える。一方、赤塚遺跡では前期～中期の集落、大塚新地遺跡では前期～後期の集落が確認されており、赤塚遺跡の例について赤塚古墳群の方形周溝墓との関連が注目されている。

前代とは対照的に、奈良・平安時代の遺跡は本遺跡北西の大塚池周辺に点在している。前述したように本遺跡では第14地点において当該期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが確認されており、赤塚遺跡でも当該期のものと思われる火葬墓が発見されているが、桜川縁辺における当該期の遺跡の分布は全体として限定的である。

(4) 中・近世

本遺跡では、第3地点において中世の掘立柱建物跡、溝跡、土坑、地下式坑、井戸跡、内耳土器、第14地点において同じく中世の掘立柱建物跡、溝跡、土坑、地下式坑、井戸跡、第16地点において中世の溝跡、ピットなどが検出されている。これらの遺構・遺物は桜川対岸の微高地上に立地する河和田城跡(102)との関連が深いと考えられる。1337(建武4)年、大掾氏の家臣・鍛冶弾正貞国が水戸城の支城として築城したと伝わる中世の輪廓式の平城であり、後に江戸氏や江戸氏家臣春秋氏の居城を経て、1590(天正18)年、佐竹義宣の水戸攻めによって落城、廢城に至ったといわれる。現在残されている遺構は春秋氏時代に整備されたと考えられ、東西約510m、南北約600mに及ぶ広大な範囲には4重の土塁や2重堀などが良好な形で残されている。なお、南側に隣接する経塚遺跡(274)には16世紀代とみられる地下式坑や堀跡が集中的に分布し、前出の若林遺跡でも中世の地下式坑が発見されていることから、中世の平城としては破格の規模を誇る河和田城に関連するエリアは、さらに広がる可能性が考えられる。

中世～近世の遺構としては、高天原遺跡で当該期の塚が確認されている。もともと2基の古墳と思われていたマウンドが発掘調査によって修正されたものであり、当該期の土師質土器皿が共伴している。同様のマウンドは他にも9基存在していたといわれ、さらに桜川の対岸には淡島神社経塚(273)、街道端愛宕神社塚(280)などが現存していることから、本地域一帯は中世から近世にかけての民間信仰の場でもあったことが知られる。

(小久)

第3節 坪遺跡における既往の調査

坪遺跡における調査は計37地点において行われている(第3図、第3表)。調査の内容はいずれも、試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査である。

坪遺跡の性格が判明した最初の調査は、平成8年に共同住宅建設に際して実施された第1地点の発掘調査である。この調査では、面積270m²程度の調査区の中にあって、縄文時代中期の竪穴建物跡4軒、土坑11基が検出され、遺構の濃密度を伺わせる。出土した土器は、阿玉台Ⅲ式からⅣ式、加曾利E式を主体として、大木式や綱取式が含まれる。

この第1地点の東側に位置する第4地点では平成18年に共同住宅建設に際して、試掘・確認調査及び浄化槽埋設箇所部分を対象とした本発掘調査が行われている。縄文時代中期加曾利EⅢ式からEⅣ式、大木式、後期綱取式を主体とする。試掘調査でも広範囲にわたって遺構面が展開したとされ、第1地点で確認されている遺構群と一連の時期の集落域であることが推察される。

また、地点が順不同となるが、第4地点と同年に実施された第3地点では、縄文時代中期の阿玉台Ib式～II式期の袋状土坑8基、陥し穴5基が確認され、そのほか、中世の掘立柱建物跡2棟、溝跡3条、土坑20基、地下式坑4基、井戸跡3基など、縄文時代だけでなく中世遺跡としての展開をみせる貴重な成果が得られている。

第14地点は第1地点や第4地点の南方で桜川に程近くなる箇所で、平成23年に個人住宅建築に際して計4回の本発掘調査が実施されている。いずれも古墳時代から奈良・平安時代、そして中世と長期に亘る土地利用の痕跡が判明している。

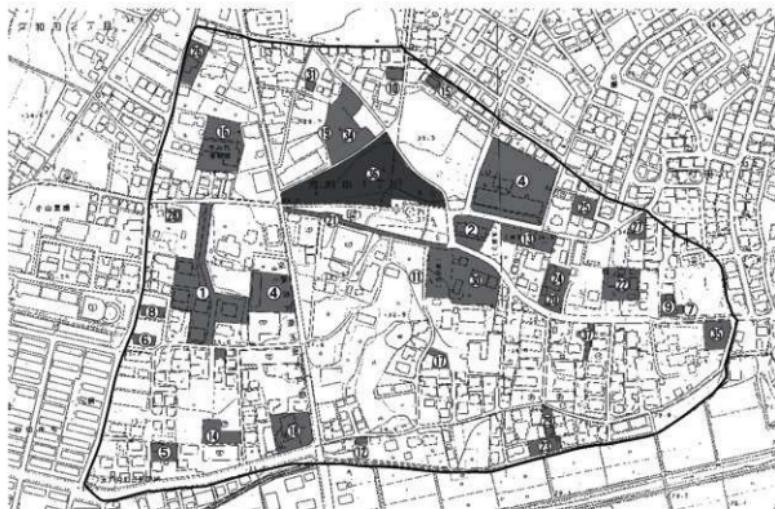
第18地点は平成25年に店舗建設に際して本発掘調査が行われ、縄文時代後期前半堀之内1式の竪穴建物跡2軒、後期後半の加曾利B3式～安行1式期の竪穴建物跡3軒、加曾利E式から称名寺式にかけての土坑が複数確認されている。さらに調査区の中央から下方にかけて埋没谷が確認され、覆土中には早期沈線文系田戸下層式から後期安行式と多くの土器が混入しており、周辺に該期の遺構群が展開することが示唆される。また、37地点では令和2年度に公共工事に伴う立会調査で縄文時代中期の土坑や、古墳時代の竪穴建物跡が確認されている。

これまでの調査結果から坏遺跡の性格を考えると、坏遺跡は縄文時代中期から後期を主体として、場所によって古墳時代から中世の遺構群が展開する。

特に縄文時代の展開としては、中期中葉の阿玉台式期の集落が第3地点や本報告である第36地点を一帯に展開しており、この時期は長期に亘って同じ箇所に遺構が累積する痕跡をみせず、むしろ一定の広がりをもち散在的に展開する可能性がみられる。本報告の調査結果からも、袋状土坑1基、竪穴建物跡1軒が確認されているが、いずれも重複はせず、第3地点と同様の性格である。

縄文時代中期後半から後期初頭にかけては第1地点・第4地点に拠点的な集落の営みがあるとみられ、ここでは阿玉台式期の集落展開から一変し、明らかに累積した居住痕跡がみられる。土坑群や建物群などが長期間にかけて同じ箇所に累積して展開する拠点集落の場所であるとみられる。

さらに縄文後期堀之内期や称名寺式期には中期集落の展開する箇所からより南に移るようで、桜川の縁辺に沿う場所に集落の営みがあったとみられる。



第3図 坏遺跡の範囲と既往の調査地点位置図 (1 : 5,000)

第3表 坏遺跡の既往の調査一覧

地点数	次数	調査箇所	調査年月日	調査種別	調査原因	遺構	遺物	備考
1	1	河和田3丁目2368-7の一部	199/2/13～3/14	本	共同住宅	○	○	井上義安1996
2	2	河和田3丁目1639-1の一部	199/8/22～8/26	試	共同住宅	-	○	水戸市教委2017
	1	河和田町1645-13	199/9/15～9/16	試	共同住宅	-	○	水戸市教委2017
3	2	河和田町1645-13	199/7/9/15	立	共同住宅	○	○	
	3	河和田町1645-13	199/8/21～7/22	本	共同住宅	○	○	地域文化財研究所 200
	1	河和田町3丁目2412-5,2413-1の一部	199/5/15～5/16	試	共同住宅	○	○	水戸市教委2018
4	2	河和田町3丁目2412-5,2413-1の一部	199/7/12	試	共同住宅	○	○	
	3	河和田町3丁目2412-5,2413-1の一部	199/7/25～7/29	本	共同住宅	○	○	日本農業史研究会2007
5	1	河和田町3丁目2381-1,3,5,6,8,10	199/7/3	試	宅地造成	-	-	水戸市教委2018
6	1	河和田3丁目2370-1	199/9/29	試	共同住宅	-	○	
7	1	河和田1丁目1610-2	199/9/8	試	個人住宅	-	-	水戸市教委2010
8	1	河和田3丁目2370-1	199/4/21	試	共同住宅	○	○	水戸市教委2011
9	1	河和田1丁目1615-1	199/7/9	試	個人住宅	-	○	水戸市教委2011
10	1	河和田1丁目1767～16	199/10/1	試	個人住宅	-	-	水戸市教委2011
	1	河和田1丁目2430-1,2432,2433	199/6/18～6/19	試	売買	○	○	水戸市教委2019
11	2	河和田1丁目2430-1,2432,2433,2435	199/1/9/2	試	高齢者用 賃貸住宅	○	○	水戸市教委2019
12	1	河和田町2507,2508-1	199/10/13	試	共同住宅	-	-	水戸市教委2019
	1	河和田1丁目1637-1,1638	199/2/10	試	共同住宅	-	○	水戸市教委2019
13	2	河和田1丁目1637-1,1638	199/7/16	試	個人住宅	○	-	
	2	河和田1丁目1637-1,1638	199/10/12	立	個人住宅	○	-	
	1	河和田町3丁目2412-5,2413-1の一部	199/7/6	試	宅地造成	○	○	
	2	河和田町3丁目2412-5,2413-1の一部	199/10/29	試	個人住宅	○	○	
14	3	河和田町3丁目2356-1の一部(区画No.1)	199/4/11～5/31	本	個人住宅	○	○	
	3	河和田町3丁目2356-1の一部(区画No.2)	199/4/11～5/31	本	個人住宅	○	○	
	3	河和田町3丁目2356-1の一部(区画No.3)	199/4/11～5/31	本	個人住宅	○	○	
	3	河和田町3丁目2356-1の一部(区画No.4)	199/4/11～5/31	本	個人住宅	○	○	
15	1	河和田1丁目1645-85	199/9/27	試	個人住宅	○	-	
	1	河和田2丁目1713-10	199/4/1～1/25	試	建物住宅	○	○	
16	2	河和田2丁目1713-10	199/4/2/4	試	分譲住宅	○	-	
	3	河和田2丁目1713-10	199/6/25～6/30	本	分譲住宅	○	○	ティケイトレード2012
17	1	河和田1丁目2449,2456	199/4/27	試	個人住宅	-	-	
	1	河和田3丁目2390-1,2390-6,2390-5	199/4/1/26	試	宅地造成	-	○	
18	2	河和田3丁目2390-1,2390-12第	199/5/17～5/21	試	店舗建設	○	○	
	3	河和田3丁目2390-1,2390-12第	199/5/29～9/13	本	店舗建設	○	○	地域文化財研究所2014
19	1	河和田1丁目1642-1	199/4/28	試	農耕通路基盤局	-	-	
20	1	河和田1丁目1627-3	199/5/8	試	個人住宅	-	○	
21	1	河和田1丁目1641-2	199/5/29	試	道筋整備	-	-	
22	1	河和田1丁目1616-1施	199/5/9/10	試	個人住宅	○	○	
23	1	河和田町2492,2493,2494-1,2495-3	199/7/7/8	試	個人住宅	-	-	
24	1	河和田1丁目1627	199/12/4	試	個人住宅	○	-	
25	1	河和田1丁目1621-8	199/12/4～12/5	試	文化財調査	-	○	
26	1	河和田2丁目1719	199/5/13	試	個人住宅	-	-	
27	1	河和田1丁目1614-8,1620-2	199/10/7	試	賃貸住宅	-	-	
28	1	河和田1丁目1645-85	199/8/2	試	個人住宅	-	○	
29	1	河和田町2487-2	199/12/2	試	個人住宅	-	-	
30	1	河和田1丁目2431の一部	199/6/20	試	個人住宅	-	○	
31	1	河和田1丁目1643の一部	199/5/16	試	宅地造成	-	-	
32	1	河和田3丁目2375-3	199/7/11	試	個人住宅	○	○	
33	1	河和田1丁目1645-7,57	199/4/11	試	個人住宅	-	-	
34	1	河和田1丁目1644-1・4	199/6/4～6/5	試	宅地造成	-	○	
35	1	河和田1丁目2490-1の一部	199/8/2	試	創造環境設	-	○	
36	1	河和田1丁目1640-1,1641-1の一部	199/12/18～1/8	試	診療所 及び販易施設	○	○	
2	河和田1丁目1640-1,1641-1の一部	199/4/7～4/28	本	診療所 及び販易施設 ²²	○	○	本報告書	
37	1	河和田町1丁目1626～2462-13地先	199/3/31	立	公共下水道工事	○	○	
	2	河和田町1丁目1626～2462-13地先	199/4/28	立	公共下水道工事	○	○	

このように縄文時代の集落として理解される坏遺跡内でも、時期によって大きく集落域が異なる様相が見られる。縄文集落としての坏遺跡の定住化を長期にわたって促したのは、やはり桜川の水系に拠るところであろう。その裏付けとして坏遺跡の東方に広がる高天原遺跡や若林遺跡などの遺跡も桜川に面し、阿玉台式期から加曾利E式期の水戸市内を代表する中期集落である。

(新垣)

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

本地点は、坪遺跡として周知された遺跡範囲の中央やや北西側に位置し、桜川北岸の河岸段丘上に位置する。現状は鹿島神社の社域の一部であった所謂鎮守の森の様な雑木林である。そのため、調査区内隨所に大きな木の根が存在し、遺構の遺存度は悪い。確認面の状況から調査区は現在の地形と同じように北から南側に向かい緩やかに傾斜するが、遺構の上端の状況、今市・七本桜軽石層が無いことなどから確認面であるⅢ層やⅣ層の上面が削平されている可能性が高い。従って、やや安定している旧表土層と考えられる黒褐色土（Ⅱ層）は近世などの耕作土層である可能性が高い。

今回の発掘調査において、縄文時代中期に帰属する堅穴建物跡1軒、奈良・平安時代の溝跡1条、中世以降の井戸跡1基の他、縄文時代の屋外炉1基、縄文時代から近世までの土坑13基、ピット49基が検出された。土坑のうち3基は縄文時代中期のフ拉斯コ状土坑である。出土遺物は総点数302点、総重量21,248.7gが出土した。このうちフ拉斯コ状土坑である2・3・13号土坑からの出土は220点、16,859.2gと総点数の約70%、総重量の約80%を占める。時期は縄文時代中期中葉の阿玉台式、後葉の加曾利E式が出土し、このうち阿玉台II式が縄文土器の90%超を占める。器種的には大半が深鉢で、僅かに浅鉢が共伴しており、この時期において普遍的な出土状況である。縄文時代の石器は磨石、蜂の巣石、圓石、石皿などが出土している。大半が2・3・13号土坑および表土からの出土である。また、1号堅穴建物跡の掘り方からは黒曜石製の二次加工のある剥片（以下、R・F）が出土している。土師器や須恵器は1号溝跡を中心に出土しており、8世紀後半から9世紀後半の遺物が中心である。須恵器は概ね白色針状物質の混入する木葉下窯跡群の製品と考えられる。また、表土からであるが当該期の瓦が出土している。中世以降の遺物として内耳土鍋や土師質土器皿、擂鉢、天目茶碗などが出土している。これらは1号井戸跡が出土の中心となる。

第2節 基本層序

基本層序の観察は本調査区の中央部側西側に設定した。I層は現在の表土層である。II層は黒褐色土が基調の旧表土層である。III層はソフトローム層への漸移層で、調査区の北側がこの層が確認面となる。IV層はソフトローム層である。V層はハードローム層である。VI層は第二黒色帶である。V層やVII層との色調の差は少ない。VII層は白色スコリアが僅かに混入する。VIII層は鹿沼軽石層への漸移層、IX層は鹿沼軽石層である。層厚は15～25cmを測る。X層は鹿沼軽石粒子の混入するハードローム層である。



第4図 全体遺構分布図



第5図 基本層序図

第3節 遺構と遺物

以下では今回の発掘調査で検出された遺構や遺物を遺構種順に説明を加えていく。また、ビットは分布の規則性が確認されていないことなどから断面図（第25～29図）で説明する。

(1) 竪穴建物跡

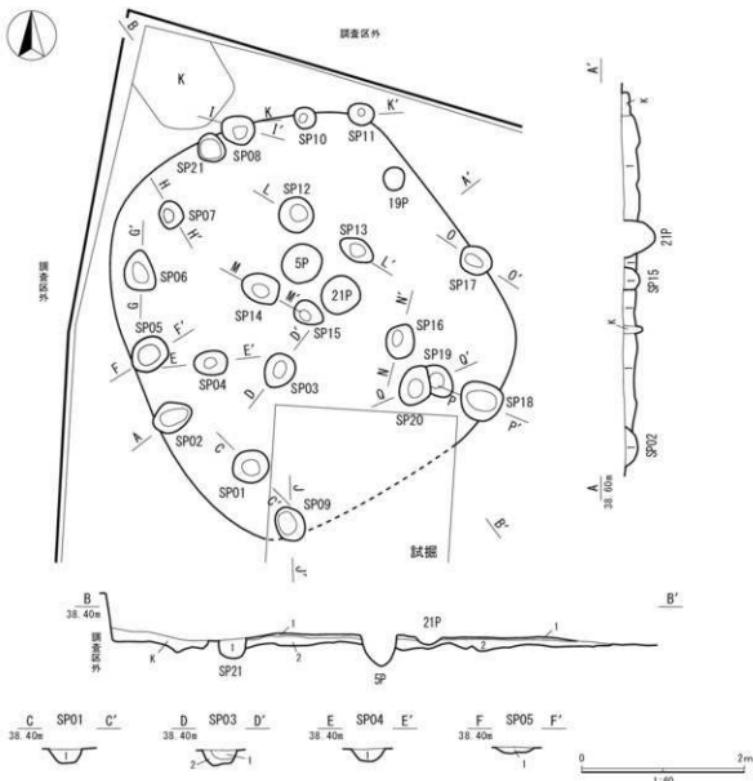
1号竪穴建物跡

検出位置は調査区北西側のB・C-1・2グリッドに位置し、III層で検出した。本跡は上面を大きく削平され、随所に根痕などの擾乱が点在する。重複関係は遺構に伴わない5・21号ビットに先行する。形態は壁面が削平されているため床面の範囲やビットの位置からの推定となるが、長軸約480cm、短軸約430cmの隅丸方形形状を呈する。主軸方位はN-28°-Wを示す。壁の深さは不明である。床面も貼り床部分が小さく散在する状況であったため不明である。ビット以外炉や周溝など付帯施設は検出されていない。ビットは21基検出されているが、近接する時期の後続するビットが混在する可能性がある。位置は本跡を巡るように位置するものと、中央部に位置するものが存在する。ほぼ小ビットであったため推定となるが、その位置から主柱穴となりうるものはSP01・02・05～11・17～19・21と考えられる。掘り方は僅かな起伏を持つが概ね平坦であり、深さは3cm～14cmを測る。

覆土は單一層で埋没状況は上面の削平により不明である。

遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式期の深鉢、後葉加曾利E II式期の深鉢、黒曜石のR・Fが6点、92.2gが出土している。5点が掘り方、1点がSP01からの出土である。このうち4点を図示することが出来た。1は角押文を斜走させる、2は隆帶を垂下させ角押文が施される。3は口縁部直下に2条の沈線を横走区画する。4は黒曜石のR・Fである。側面の一部に細かい調整が施される。1・2は縄文時代中期中葉阿玉台II式、3は中期後葉加曾利E II式の土器であろう。1・3・4は掘り方、2はSP01から出土している。

本跡の帰属する時期は、出土遺物から縄文時代中期阿玉台II式～加曾利E III式期と考えられる。



1号竖穴建物跡

- 1 10YRA/4 委褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ1～2cm）・ローム粒子（φ0.5cm）を少量含む。
2 10YRA/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に。黒褐色土を微量含む。

1号竖穴建物跡 1号ピット

- 1 10YRA/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ1～2cm）・ローム粒子を多量含む。

1号竖穴建物跡 2号ピット

- 1 10YRA/3 委褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。

1号竖穴建物跡 3号ピット

- 1 10YRA/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2 10YRA/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム土を多量に含む。

1号竖穴建物跡 4号ピット

- 1 10YRA/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。

1号竖穴建物跡 5号ピット

- 1 10YRA/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

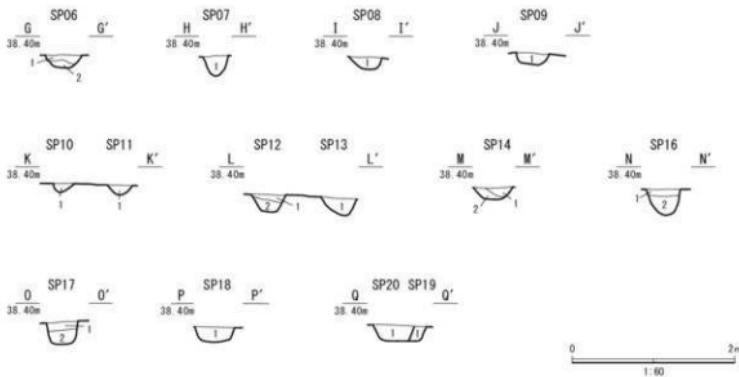
1号竖穴建物跡 15号ピット

- 1 10YRA/4 委褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ1～2cm）を少量、ローム粒子を中量含む。

1号竖穴建物跡 21号ピット

- 1 10YRA/3 にぶい黄褐色土層 やや粘性をもち、締まる。ローム土を多量に。粉褐色土を少量含む。

第6図 1号竖穴建物跡 (1)



1号堅穴建物跡 6号ピット

- 1 10Y3/2 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10Y3/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム土を多量に含む。

1号堅穴建物跡 7号ピット

- 1 10Y3/3 にぶい黄褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。

1号堅穴建物跡 8号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム土を多量に含む。

1号堅穴建物跡 9号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

1号堅穴建物跡 10号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム土を中量含む。

1号堅穴建物跡 11号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を中量含む。

1号堅穴建物跡 12号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム土を中量含む。
- 2 10Y3/4 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。

1号堅穴建物跡 13号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を中量含む。

1号堅穴建物跡 14号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、締まる。ローム土を少量含む。
- 2 10Y3/3 にぶい黄褐色土層 やや粘性をもち、締まる。ローム土を多量に含む。

1号堅穴建物跡 15号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を中量含む。
- 2 10Y3/3 にぶい黄褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。

1号堅穴建物跡 16号ピット

- 1 10Y3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を中量含む。
- 2 10Y3/3 にぶい黄褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。

1号堅穴建物跡 17号ピット

- 1 10Y3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。

1号堅穴建物跡 18号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を中量含む。

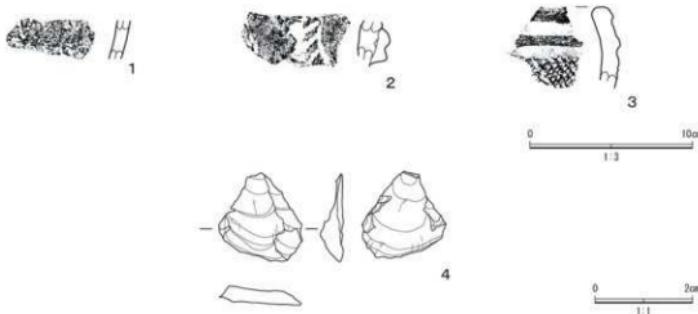
1号堅穴建物跡 19号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ロームブロック (φ1 ~ 2 cm)・ローム粒子を中量含む。

1号堅穴建物跡 20号ピット

- 1 10Y3/4 基褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。ロームブロック (φ1 ~ 2 cm)・ローム粒子を少量含む。

第7図 1号堅穴建物跡 (2)



第8図 1号豎穴建物跡出土遺物

第4表 1号豎穴建物跡出土土器属性一覧

因数 番号	出土 地点	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調 (外面/内面)	備考
1	S101 掘り方 土器	縄文 土器	深鉢	側面	粗片	—	—	—	角押文を斜走、ナゲ、内面ナゲ。	白色粘土・チートル 粘・石英粒・雲母片	良好	10YR4/4 黄褐色	阿玉台式。
2	S101 掘り方 土器	縄文 土器	深鉢	側面	粗片	—	—	—	ナゲと捺押文を斜走の付け透す。角押文を縱方向に施す。内面ナゲ。	白色粘土・チートル 粘・石英粒	良好	10YR5/4 にぶい黄褐色	阿玉台式。
3	S101 掘り方 土器	縄文 土器	深鉢	側面	粗片	—	—	—	波状白線透跡。口縁部以下に2条の沈線を横走。单底且、彫文を施す。内面ナゲ。	白色粘土・チートル 粘・石英粒・長石粒	良好	10YR4/3 にぶい黄褐色	加曾利臼田 式。

第5表 1号豎穴建物跡出土石器属性一覧

因数 番号	出土 地点	種別	器種	部位	残存率 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	特徴・手法	備考
4	S101 掘り方	黒曜石	R+F	—	—	1.8	1.8	0.4	0.93	側面側の一部に二次加工痕。	

(2) 溝跡

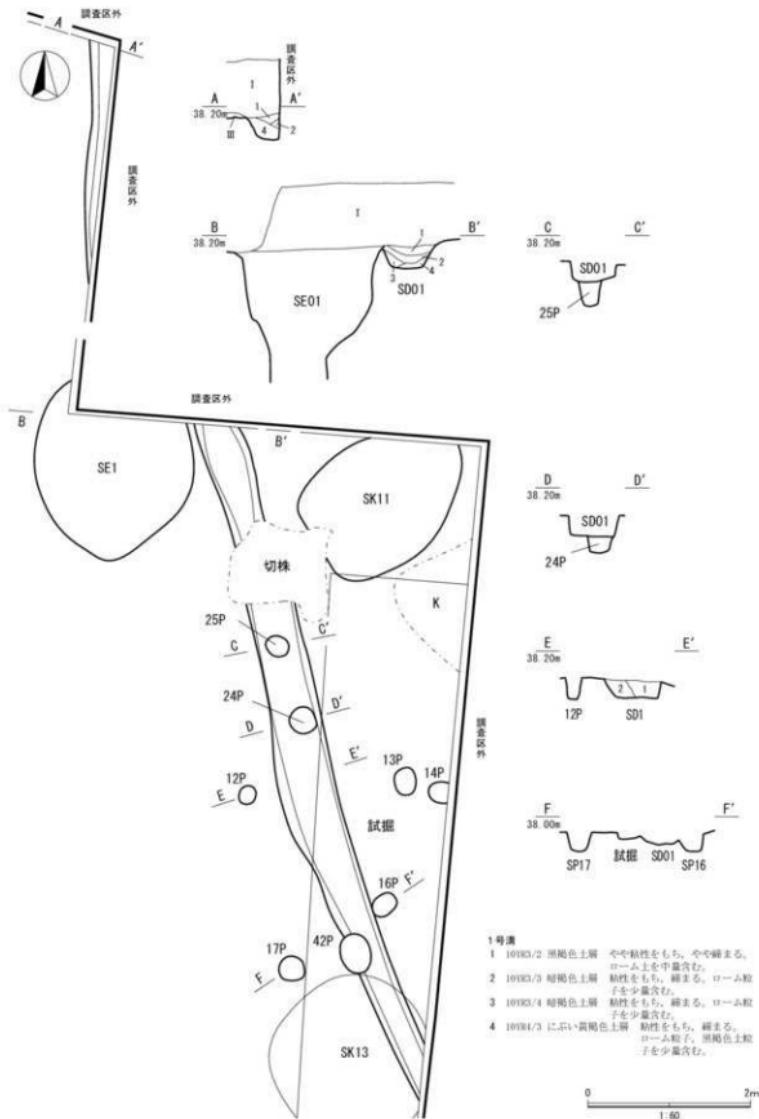
1号溝跡

検出位置は調査区北側のC-2から調査区外の部分を挟み、D-3・4・5グリッドへ南北方向に走る。北側はIII層、南側はIII層～IV層で検出した。北側端と南側端は調査区外へ伸びる。また、本跡北側東部および中央部が調査区外となる。42号ピットに先行し、13号土坑や16・24・25号ピットに後続する。形態は全長推定17.66m以上で、確認された部分では北側で約3.9m、南側で8.6mである。上面幅約44cm～70cm、底面幅約23cm～52cm、深さ約18cm～24cmを測り、主軸方位はN-8°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は急角度で根痕の影響なのか起伏を持つ。底面も起伏を持ち、北側と南側の比高差は30cmを測る。水流の痕跡は確認されていない。付帯施設は検出されていない。

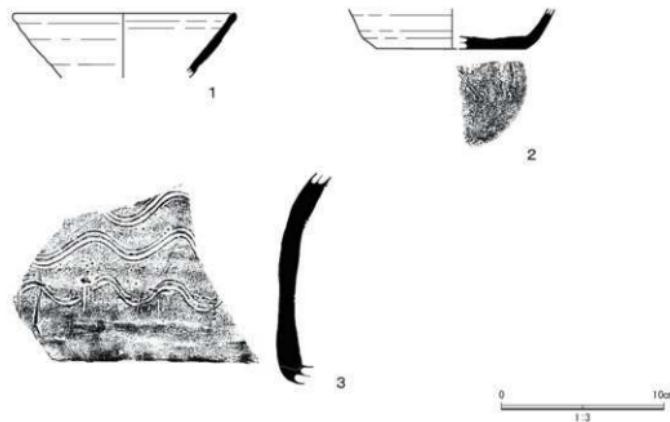
覆土は4層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式期の深鉢、須恵器の壊や甕が5点、397.1gが出土している。このうち3点を図示することが出来た。1・2は胎土から木葉下窓跡群産の須恵器の壊である。2の底部にはヘラ書きが施される。3は外面に多段の波状文が施される須恵器の甕である。

出土遺物や覆土、遺構の状況から8世紀後半から9世紀前葉の区画溝と考えられる。



第9図 1号溝跡



第10図 1号溝跡出土遺物

第6表 1号溝跡出土土器属性一覧

因数番号	出土地点	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調 (外面/内面)	備考
1	SD01 覆土	直筒 甌	环	口縁 底部 外側	10	33.5	1.8	(4.0)	口縁と内外面 回転ナギ。体部内外面 向かうラケズリ後ナギ。	白色粒子・チャート 粒・石英粒	直射 2,515/1 黄灰色	丸窓下室跡 習用。	
2	SD01 覆土	直筒 甌	环	体部 底部 外側	10	—	(9.2)	(2.4)	体部内外面回転ナギ。底部外表面多方 向かうラケズリ後ナギ。	白色粒子・チャート 粒・石英粒	直射 2,516/1 灰色	木葉下室跡 習用。底部 へラ書き。	
3	SD01 覆土	直筒 甌	脚	明暗 脚片	—	—	—	—	外面部の2条1単位の波状文。内 面ナギ。	白色粒子	直射 2,516/2 灰黄色		

(3) 井戸跡

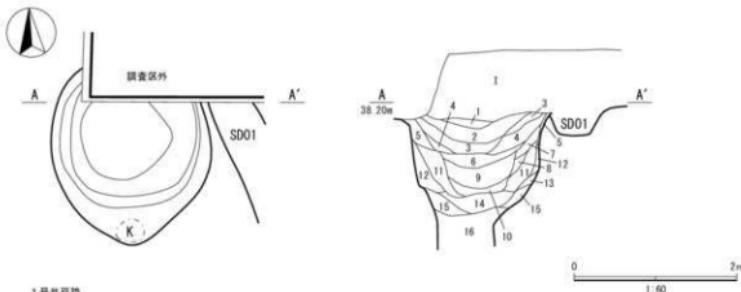
1号井戸跡

検出位置は調査区中央部のC・D-3・4グリッドに単独で位置し、III層で検出した。北側の一部が調査区外である。形態は長軸約196cm、短軸約169cm以上の推定梢円形を呈する。主軸方位はN-9°-Eを示す。断面形は漏斗状を呈する。壁面は平坦である。底面は崩落の危険から検出できなかった。付帯施設は検出されていない。

覆土は確認された部分で16層に分けられる。16層以下は單一層で層厚は厚いため人為的な埋没と考えられ、16層より上層は自然な埋没状況を示す。

遺物は繩文時代中期深鉢、蜂の巣石・石皿、須恵器の高台付灰や蓋、土師質土器皿や土鍋、陶器の天目茶碗や皿、硯が18点、1,354.4gが出土している。掘削深度の関係ですべて遺構上層からの出土である。このうち3点を図示することが出来た。1は土師質土器の内耳土鍋である。内耳部は小さく胴部は長い。2は天目茶碗である。内面から外面中央下まで鉄釉が施される。16世紀前半から中葉の瀬戸美濃大窯1~2段階の時期であろう。3は石製硯破片である。陸部分は後世に転用砥石として利用されていた痕跡が確認できる。亦間硯であろうか。

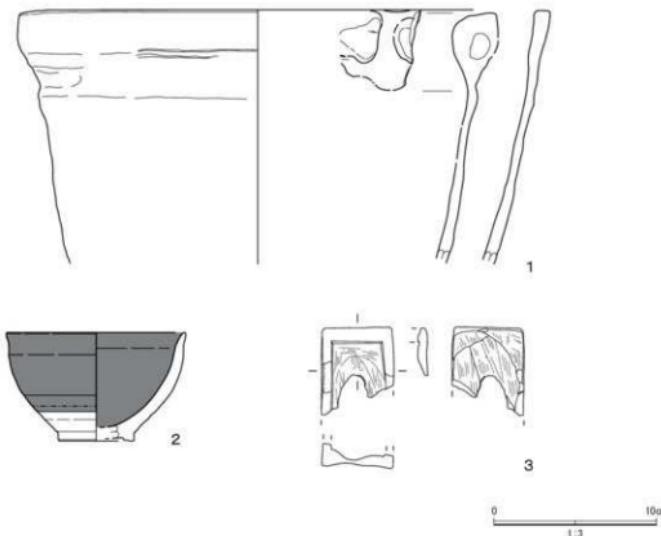
本跡の帰属する時期は、出土遺物から中世である16世紀前半から16世紀中葉と考えられる。



1号井戸跡

- 1 IOVE1/4 細網色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 IOVE1/4 細網色上層 粒性を持ち、やや締まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)・ローム粒子を少量含む。
- 3 IOVE1/3 3.5m～5.5m 層 剥離面を有する細網色土層。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{cm}$) を少量。ローム粒を多量に含む。
- 4 IOVE1/4 細網色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
- 5 IOVE1/3 にぶい 黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
- 6 IOVE1/4 黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
- 7 IOVE1/6 褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
- 8 IOVE1/4 褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
- 9 IOVE1/4 細網色上層 ロームブロック ($\phi 1 \sim 5\text{cm}$)・ローム粒子を少量。鹿児島石粒子を微量含む。
- 10 IOVE1/4 細網色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
- 11 IOVE5/9 黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 3\text{cm}$)・ローム粒子を少量含む。
- 12 2.515/6 黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 3\text{cm}$) を多量に。ローム粒子を少量含む。
- 13 2.515/6 黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)・ローム粒子を少量含む。
- 14 IOVE6/8 明黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)・ローム粒子を少量。鹿児島石粒子を微量含む。
- 15 IOVE5/8 明黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子。鹿児島石粒子を少量含む。
- 16 IOVE5/8 黄褐色上層 粒性を持ち、やや締まる。ローム粒子。鹿児島石粒子を少量含む。

第 11 図 1号井戸跡



第 12 図 1号井戸跡出土遺物

第7表 1号井戸跡出土土器属性一覧

区分番号	出土地点	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	壁厚 (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調 (外面／内面)	備考
1	SE01 上層	土器 骨器 貝殻	内耳 口縁 底盤	口縁 底盤	20	(34.4)	—	(28.6)	口縁部平坦、口縁部内各面ヨコテザ。 側面外縁ナギ。内面内耳延り付け、丁寧なナギ。	白色粒子	良好	7.5YR5/6 明褐色 7.5YR6/6 棕褐色	口縁部から脚部 外壁露付者、15世紀中葉～後半。
2	SE01 覆土	陶器	天目 茶碗	体部 底盤	30	(30.8)	(4.6)	6.7	底部内外面鉄軸跡。底盤削り出しで而して底部を造る。	白色粒子	良好	5YR3/2 増赤褐色 5YR1.7/1 黒色	湘戸・美濃系 16世紀前半～中期。 人頭1～2段階。

第8表 1号井戸跡出土石器属性一覧

区分番号	出土地点	種別	器種	部位	残存率 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
3	SE01 覆土	石製品	硯	基部	20	(5.4)	4.4	(1.4)	22.5	軽用砥石。縁欠損。抜部欠損部を砥石として利用。	水質硬水。 脚部破損。

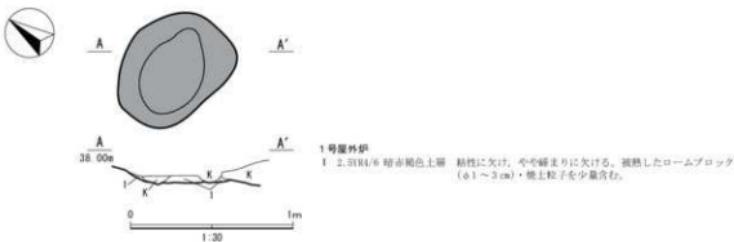
(4) 屋外炉

1号屋外炉

検出位置は調査区南側のC-5グリッドに単独で位置し、III層～IV層で検出した。本跡は根痕で大きく破壊されているうえ、上面を大きく削平されているため詳細な規模は不明な点が多いが、長軸約78cm、短軸約59cm以上、深さ約6cmの不整楕円形を呈する。主軸方位はN-68°-Wを示す。断面形は皿状を呈する。壁面は緩やかに立ち上がる。底面は起伏を持つ。

覆土は被熱したロームブロックや焼土粒子を含む單一層であるが、上面の削平により埋没状況は不明である。

遺物は出土していない。覆土や遺構の状況から帰属する時期は縄文時代であろう。



第13図 1号屋外炉

(5) 土坑

1号土坑

検出位置は調査区南側のC-2グリッドに単独で位置し、III層で検出した。本跡は東側で根痕により大きく破壊されていた。長軸約93cm、短軸約78cm、深さ約17cmの不整楕円形を呈する。主軸方位はN-71°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は緩やかに立ち上がる。底面は概ね平坦である。

覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は出土していない。覆土や遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

2号土坑

検出位置は調査区中央部北側のC-3グリッドに単独で位置し、III層で検出した。開口部の長軸約102cm、短軸約96cm、底面の長軸約171cm、短軸約153cm、深さ約69cmの不整梢円形を呈する。主軸方位はN-42°-Eを示す。断面形はプラスコ状を呈する。壁面は平坦で中位付近から下部にかけて大きく外側に23cm~45cmほど開く。底面は鹿沼軽石層まで掘り込まれていて、概ね平坦である。

覆土は5層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式、大木8a式の浅鉢や深鉢、磨石、台石・圓石、砥石、削器、石皿などが81点、6,739.9g出土している。このうち25点を図示することが出来た。1~3は角押文を中心に施文されたグループである。角押文で円文や波状文、三角形区画を施す。1は深鉢である。4~5はキザミを伴う隆線（帶）を貼り付けるグループである。4は頭部である。6~7はキザミを伴わない隆線（帶）を貼り付けるグループである。6は胴部で「く」字状に断面が三角形の隆線を貼り付ける。7は胴部から底部片で、この遺物のみ近接する3号土坑出土の遺物と接合している。8は隆線（帶）際に沈線や角押文を施すグループである。9~10は土器製作時の粘土紐に沿って連續爪形文を施すグループである。11は沈線が施されるグループである。12は条線文が施されるグループである。4条1単位の条線文を「ハ」字状に施す。13~16は地文に縄文が施されるグループである。南東北に確認される大木8a式期の影響が強いグループであろう。17~18は無文のグループである。17は小突起が伴う深鉢、18は浅鉢である。19~21は底部のグループである。19~20は網代痕が確認される。21の底部外縁部に棒状圧痕が確認された。22~23は磨石である。22は砂岩製、23は安山岩製である。24は砂岩製の表裏面に溝状の磨痕が確認される砥石状の遺物である。25は安山岩製の一部に原礫面が残る削器と思われる遺物である。

出土遺物や覆土、遺構の状況から帰属する時期は縄文時代中期中葉阿玉台II式期の貯蔵穴であろう。

3号土坑

検出位置は調査区中央部北側のB-3グリッドに単独で位置し、III層で検出した。開口部の長軸約136cm、短軸約132cm、底面の長軸約212cm、短軸約194cm、深さ約65cmの不整梢円形を呈する。主軸方位はN-20°-Eを示す。断面形はプラスコ状を呈する。壁面は平坦で中位付近から下部にかけて大きく外側に20cm~48cmほど開く。底面は鹿沼軽石層まで掘り込まれていて、概ね平坦である。

覆土は11層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式、大木8a式の浅鉢や深鉢、磨石、圓石、蜂の巣石などが136点、8,913.9g出土している。このうち35点を図示することが出来た。1~5は角押文で円文や波状文、三角形区画が施される。6~9は隆線の区画内に円文や

三角形文などを角押文で施される。8は盾状突起である。10はキザミを伴う隆線（帶）を貼り付けるグループである。10は波状口縁深鉢である。11・12はキザミを伴わない隆線（帶）を貼り付けるグループである。12は底部片である。13～15は隆線（帶）際に沈線や角押文を施すグループである。13・14は隆線際に角押文、15は連続刺突文が施される。16～22は土器製作時の粘土紐に沿って連続爪形文を施すグループである。20～22は隆線が伴う。23～25は沈線が施されるグループである。23は沈線や隆線で区画を造る。24・25は波状沈線文である。26は地文に撚糸文が施されるグループである。南東北に確認される大木8a式期の影響が強いグループであろう。27～29は無文のグループである。どれも浅鉢であろう。30は突起である。31・32は底部のグループである。31は網代痕が確認される。33安山岩製の磨石である。34は磨石・圓石である。全面に磨痕が確認され、表裏面に凹みが確認される。35は当初石皿として利用後、表面9カ所、裏面5カ所逆円錐状に穿たれたる安山岩製の蜂の巣石・石皿である。

出土遺物や覆土、遺構の状況から帰属する時期は縄文時代中期中葉阿玉台II式期の貯蔵穴であろう。

4号土坑

検出位置は調査区中央部北側のC-3・4グリッドに単独で位置し、III層で検出した。本跡は北東側で根痕により大きく破壊されている。長軸約140cm、短軸約120cm、深さ約45cmの不整形を呈する。主軸方位はN-60°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は出土していない。覆土や遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

5号土坑

検出位置は調査区中央部南側のC-4グリッドに単独で位置し、III層で検出した。本跡は東側で根痕により大きく破壊されていた。長軸約244cm、短軸約101cm以上、深さ約28cmの隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-24°-Eを示す。断面形は箱状を呈する。壁面は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は出土していない。覆土や遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

6号土坑

検出位置は調査区南側のC-5・6グリッドに単独で位置し、III層～IV層で検出した。長軸約72cm、短軸約53cm、深さ約46cmの楕円形を呈する。主軸方位はN-32°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は急角度に立ち上がる。底面は僅かに起伏を持つ。概ね平坦である。

覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は炻器の甕が1点、7.1gが出土しているが、細片のため図示することは出来な

かった。

出土遺物や覆土、遺構の状況から帰属する時期は中世期であるが、その性格は不明である。

7号土坑

検出位置は調査区南側のC-5グリッドに位置し、III層で検出した。1・28号ピットに後続する。長軸約118cm、短軸約105cm、深さ約20cmの不整楕丸方形を呈する。主軸方位はN-21°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

覆土は2層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代の深鉢、須恵器の壺、土師器の甕が3点、18.7gが出土しているが、どれも細片で図示することは出来なかった。

出土遺物や覆土、遺構の状況から帰属する時期は奈良・平安時代以降と推測出来るが、その性格は不明である。

8号土坑

検出位置は調査区南西側のA・B-5グリッドに単独で位置し、III層で検出した。長軸約115cm、短軸約64cm、深さ約24cmの楕円形を呈する。主軸方位はN-63°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期の深鉢が1点、22.8gが出土しているが、細片のため図示することは出来なかった。

出土遺物や覆土、遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

9号土坑

検出位置は調査区南西側のA-5グリッドに単独で位置し、III層で検出した。本跡西側は調査区外である。長軸約139cm、短軸約58cm以上、深さ約16cmの推定不整形を呈する。主軸方位はN-18°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は緩やかに立ち上がる。底面は僅かに起伏を持つ。

覆土は單一層で、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は出土していない。覆土や遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

10号土坑

検出位置は調査区南西側のB-5グリッドに単独で位置し、III層～IV層で検出した。長軸約105cm、短軸約56cm以上、深さ約19cmの不整楕円形を呈する。主軸方位はN-41°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は緩やかに立ち上がる。底面は僅かに起伏を持つ。

覆土は2層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。

遺物は出土していない。覆土や遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

11号土坑

検出位置は調査区中央部東側のD-4グリッドに単独で位置し、III層で検出した。北側の一部が調査区外であり、南側で木痕により一部が破壊されている。長軸約212cm、短軸約158cm、深さ約22cmの不整梢円形を呈する。主軸方位はN-55°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は緩やかに立ち上がる。底面は起伏を持つ。

覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は須恵器の壺、片岩製の砥石が2点、332.4gが出土している。このうち1点を図示することが出来た。1は片岩製の砥石である。

覆土、遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

12号土坑

検出位置は調査区北部東側のC-2グリッドに単独で位置し、III層で検出した。東側の半分が調査区外である。長軸約66cm、短軸約29cm以上、深さ約23cmの推定梢円形を呈する。主軸方位はN-8°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈する。壁面は急角度に立ち上がる。底面は概ね平坦である。

覆土は3層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期の深鉢が1点、9.0gが出土しているが、細片のため図示することは出来なかった。

覆土、遺構の状況から帰属する時期は中世以降と推測出来るが、その性格は不明である。

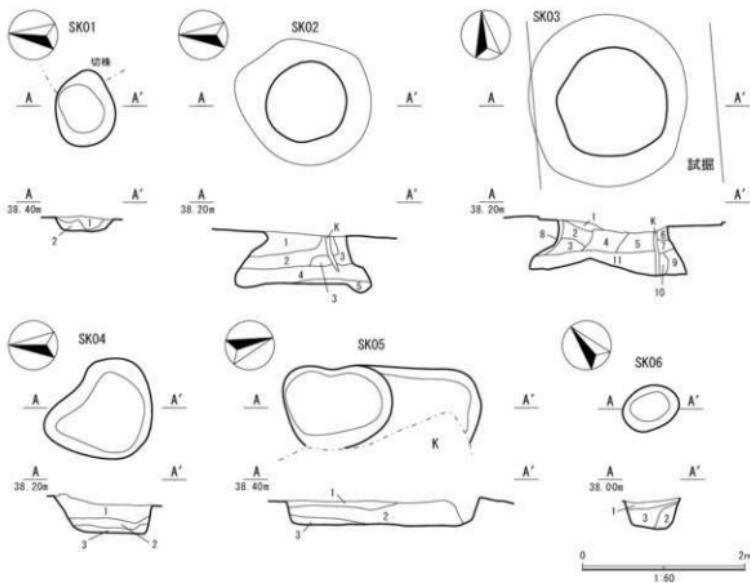
13号土坑

検出位置は調査区南東部のD-5グリッドに位置し、IV層で検出した。1号溝跡、18号ピットに先行する。東側の一部は調査区外である。開口部の長軸約146cm、短軸約129cm、底面の長軸約208cm、短軸約191cm以上、深さ約64cmの不整円形を呈する。主軸方位はN-23°-Eを示す。断面形はフラスコ状を呈する。壁面は平坦で中位付近で大きく外側に24cm~46cmほど開く。底面は鹿沼軽石層まで掘り込まれていて、概ね平坦である。

覆土は10層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。

遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式の深鉢、蜂の巣石が3点、1,205.4g出土している。このうち2点を図示することが出来た。1は横走する連続爪型文と小突起などが施される縄文時代中期中葉阿玉台II式の土器である。2は砂岩製の蜂の巣石・石皿である。

出土遺物や覆土、遺構の状況から帰属する時期は縄文時代中期中葉阿玉台II式期の貯蔵穴であろう。



1号土坑

- 1 10YR5/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4/3 に似る 黃褐色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に含む。

2号土坑

- 1 10YR5/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を微量含む。
- 2 10YR5/2 黑褐色土層 小や中粘性をもち、縮まる。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。
- 3 10YR4/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 3\text{ cm}$) を少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を中量含む。
- 4 10YR4/3 黑褐色土層 小や中粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 3\text{ cm}$) を少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を中量含む。
- 5 10YR4/3 に似る 黃褐色土層 粘性あり。やや縮まる。ローム土を多量に含む。

3号土坑

- 1 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を微量含む。
- 2 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$) を微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。
- 3 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$)。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を微量含む。
- 4 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$)。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。
- 5 10YR5/2 黑褐色土層 小や中粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$) を微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。
- 6 10YR4/3 に似る 黃褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。
- 7 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム土を少量含む。
- 8 10YR4/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム土を中量含む。
- 9 10YR4/3 褐色土層 粘性をもち、縮まる。ローム土を多量に含む。
- 10 10YR4/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$) を少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を中量含む。
- 11 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に含む。

4号土坑

- 1 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を微量含む。
- 2 10YR4/3 に似る 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム土を多量に含む。
- 3 10YR4/6 褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 3\text{ cm}$) を少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を中量含む。

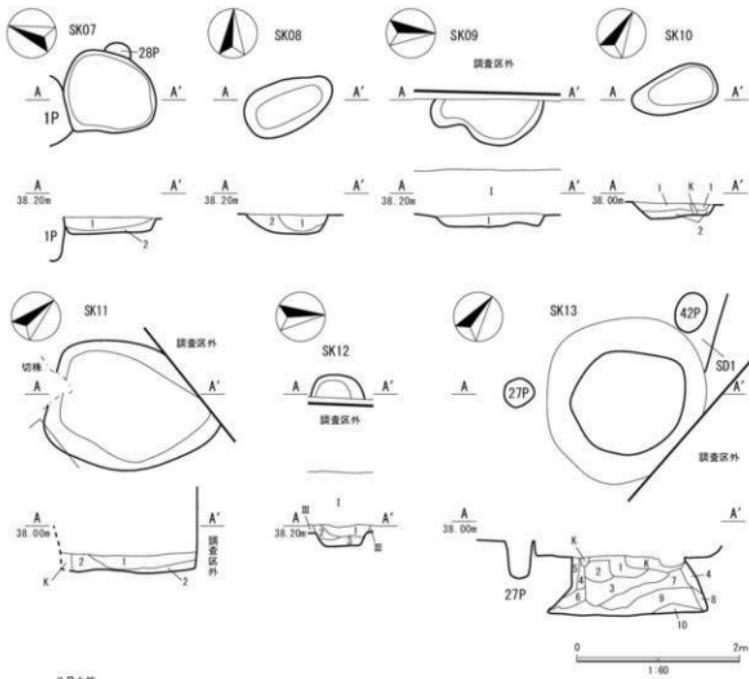
5号土坑

- 1 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。
- 2 10YR4/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 5\text{ cm}$) を少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を中量含む。
- 3 10YR4/6 褐色土層 粘性をもち、やや縮まりに欠ける。ロームブロック ($\phi 1\sim 3\text{ cm}$) を少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を中量含む。
- 4 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まりに欠ける。ローム粒子 ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$) を微量含む。

6号土坑

- 1 10YR5/4 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 0.5\sim 1\text{ cm}$)。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR5/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。
- 3 10YR5/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 0.5\sim 1\text{ cm}$)。ローム粒子を少量含む。

第 14 図 土坑 (1)



7号土坑

- 1 10VR3/3 始鶴色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。
- 2 10VR4/6 開鶴色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム土を多量に含む。

B号土坑

- 1 10VR3/2 黒鶴色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$)・ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を微量含む。
- 2 10VR3/3 始鶴色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$)・ローム粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を少量含む。

9号土坑

- 1 10VR3/3 始鶴色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

10号土坑

- 1 10VR3/3 始鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を中量含む。
- 2 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。

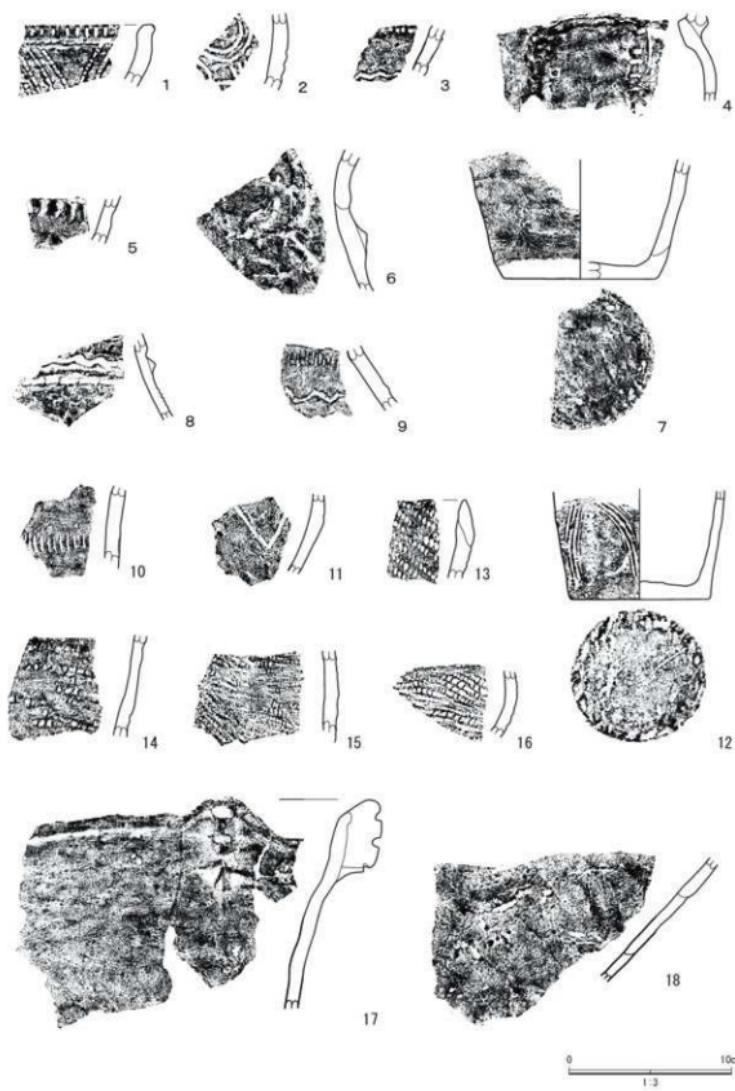
11号土坑

- 1 10VR2/3 始鶴色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1\sim 5\text{ cm}$) を微量含む。ローム粒子を少量含む。
- 2 10VR3/4 黑鶴色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム土を多量に含む。

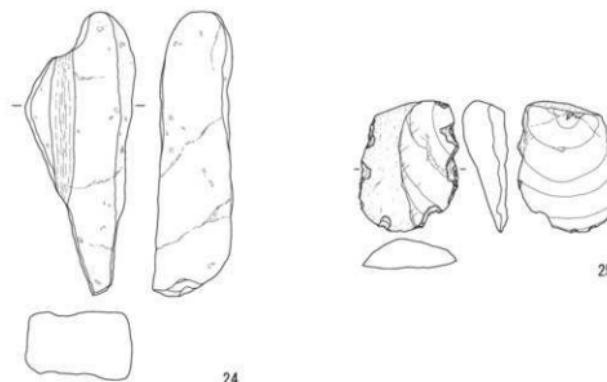
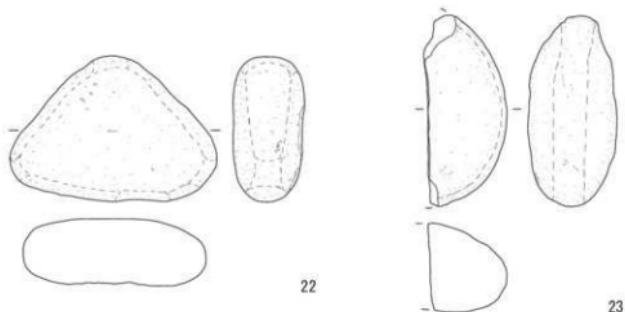
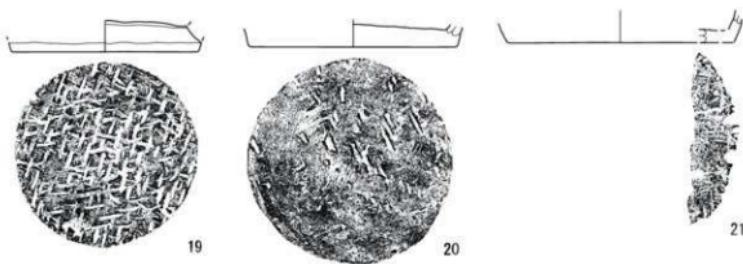
12号土坑

- 1 10VR4/3 始鶴色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に、表面土粒子 ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$) を微量含む。
- 3 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に、表面土ブロック・表面土粒子 ($\phi 1\sim 4\text{ cm}$) を少量含む。
- 4 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に含む。
- 5 10VR3/3 始鶴色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 6 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、ローム粒子を多量に、表面土ブロック ($\phi 2\sim 3\text{ cm}$) を微量含む。
- 7 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に、表面土粒子 ($\phi 0.5\text{ cm}$) を微量含む。
- 8 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 9 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 10 10VR4/3 にぶい黄鶴色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を、表面土ブロック ($\phi 1\sim 2\text{ cm}$) を微量含む。

第 15 図 土坑 (2)



第 16 図 2 号土坑出土遺物 (1)



0 10cm
1:3

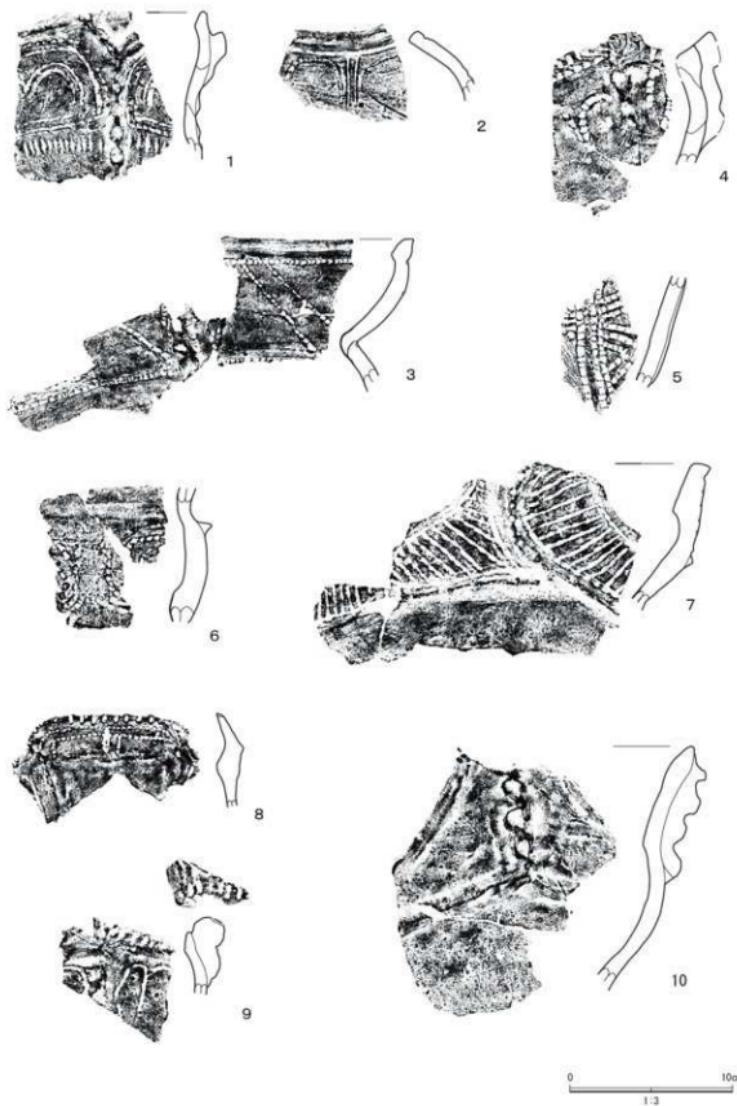
第 17 図 2 号土坑出土遺物 (2)

第9表 2号土坑出土土器属性一覧

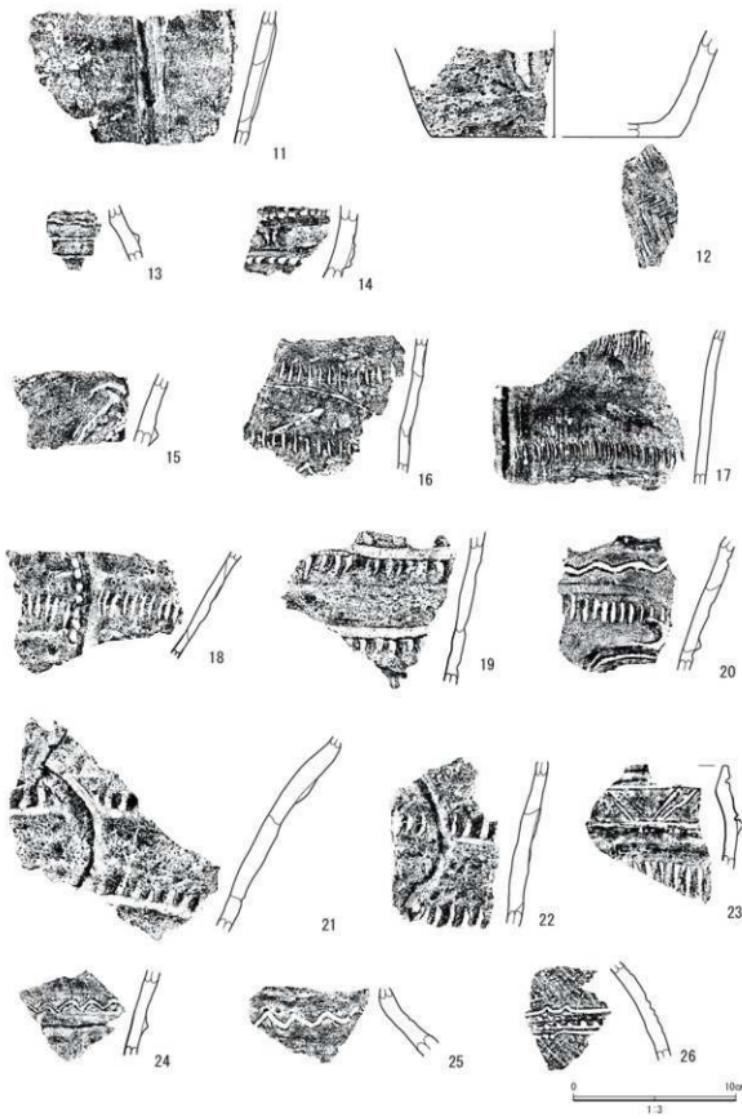
図版番号	出土地点	種別	器種	部位	埋存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	特徴・手法		胎土	焼成	色調(外面/内面)	備考
									縦横比	横断面				
1	西文 覆土	西文 深鉢	口縁 底～ 脚部	脚片	-	-	-	-	平縫底鉢。口縫底鉢で、底面下部 に横縫。解説多条の台付文で三重 形を形成。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R2/1 黒色 107R4/2 灰褐色	阿玉台II式。		
2	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	北縫と2重の円文や角押文を施文。 内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 7.5W1/1 黑褐色 7.5W1/2 7/1 黑色	阿玉台II式。		
3	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	横走する沈縫による波状文。角押文 を施す。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/3 にい 黄褐色 107R3/2 黄褐色	大木8a式。		
4	西文 覆土	西文 深鉢	脚部 底～ 脚部	脚片	-	-	-	-	瓶縫なナダを全く残す陰面を貼り付け 区画。区画内ナダ。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/3 にい 黄褐色 107R6/4 にい 黄褐色	阿玉台II式。		
5	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	前方に向かって2段うね縫を貼り付け 内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R6/4 にい 黄褐色	阿玉台式。		
6	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	脚面V字状の構造を「く」字状に貼 り付け。ナダ。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 7.5W4/2 灰褐色 107R5/3 にい 黄褐色	阿玉台II式。		
7	西文 覆土	西文 深鉢	脚部 底～ 底近	脚片	10	(9.3) (7.3)	-	-	銅鋸刃跡縫を兩方向に貼り付け。その間に 横方向に隣縫を貼り付け。その間に 縫縫による底文および横走する角 押文。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/6 明赤褐色 7.5W1/2 7/1 黑色	阿玉台式。		
8	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	横方向に隣縫を貼り付け。その間に 縫縫による底文および横走する角 押文。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 7.5W7/4 にい 黄褐色	阿玉台II式。		
9	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	幅広の横縫底文を横走。下位に横 走する角押文。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R1/7/1 黑色 107R1/8 にい 黄褐色	阿玉台II式。		
10	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	幅広の連續底文を横走。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 7.5W1/2 黄褐色	阿玉台II式。		
11	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	「V」字状の沈縫。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R3/4 にい 黄褐色 107R3/2 黄褐色	阿玉台II式。		
12	西文 覆土	西文 深鉢	脚部 底～ 底近	脚片	10	R.4 (6.8)	-	-	銅鋸刃跡縫を各側面に「ル」 字状に施文。底部外側面代代 ナダ。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/6 明赤褐色 7.5W1/2 7/1 黑色	阿玉台II式。		
13	西文 覆土	西文 深鉢	口縁 底～ 脚部	脚片	-	-	-	-	平縫深鉢。口縫底單面R1.縫文を斜走。 内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R2/1 黑色 107R5/3 にい 黄褐色	大木8a式。		
14	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	単筋R1.縫文を横走。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R1/2 灰褐色 107R5/3 にい 黄褐色	大木8a式。		
15	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	筒体不明の縫文を施文。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/4 にい 黄褐色 107R5/2 灰褐色	大木8a式。		
16	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	-	-	-	-	縫文を施文。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 7.5W1/2 灰褐色	大木8a式。		
17	西文 覆土	西文 深鉢	口縁 底～ 脚部	脚片	10	-	-	-	小突起を伴う平縫深鉢。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/2 黑色 107R7/4 にい 黄褐色	阿玉台II式。		
18	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	10	-	-	-	外面ナダ。内面丁寧なナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 7.5R7/4 にい 黄褐色	阿玉台式。		
19	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	10	-	11.6 (1.9)	-	底部外表面代代。ナダ。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R6/4 にい 黄褐色 107R4/2 灰褐色	阿玉台式。		
20	西文 覆土	西文 深鉢	脚部	脚片	10	-	12.8 (1.7)	-	底部外表面代代。ナダ。内面ナダ。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R4/2 黑色 107R4/2 灰褐色	阿玉台式。		
21	西文 覆土	西文 深鉢	脚部 底～ 脚部	脚片	(3.8) (2.1)	-	-	-	銅鋸内外面ナダ。底部外表面ケズリ後 ナダ。棒状凸起。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R5/2 黑色 107R5/4 にい 黄褐色	阿玉台式。		

第10表 2号土坑出土石器属性一覧

図版番号	出土地点	種別	器種	部位	埋存率(%)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴・手法		胎土	焼成	色調(外面/内面)	備考
										縦横比	横断面				
22	西文時代 覆土	西文時代 石器	磨石	-	完存	(9.9)	(12.7)	4.4	741.8	全面に磨り痕を確認できる。		砂質。			
23	西文時代 覆土	西文時代 石器	磨石	-	完存	(11.7)	(5.0)	5.4	418.5	全面に磨り痕を確認できる。		安山岩。			
24	西文 覆土	石製品	砥石	-	完存	(17.4)	(6.7)	4.8	643.5	全面に2条。裏面に1条の幅広になる溝。	白色粘子・チャート 粘・石素粘・雲母片	直 107R4/4 にい 黄褐色 107R4/2 灰褐色	阿玉台式。		
25	西文時代 覆土	西文時代 石器	削器	基部 底～ 刃部	-	(9.0)	(6.0)	2.6	108.4	一部に原縫を残す。		安山岩。			



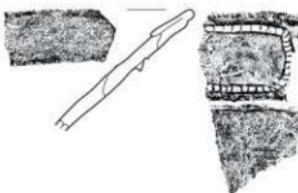
第 18 図 3 号土坑出土遺物 (1)



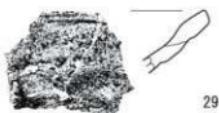
第 19 図 3 号土坑出土遺物 (2)



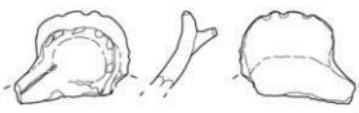
27



28



29



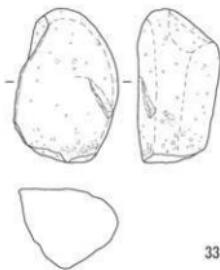
30



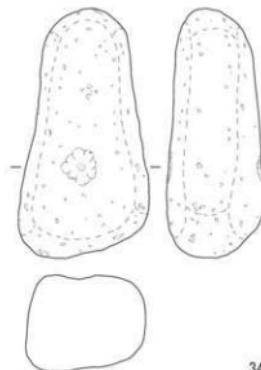
31



32



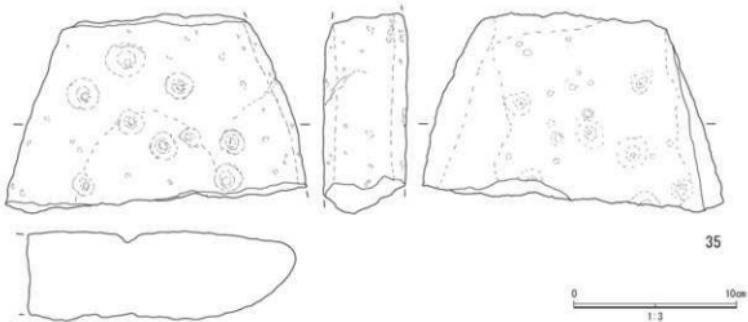
33



34

0
1 cm

第 20 図 3 号土坑出土遺物 (3)



第 21 図 3号土坑出土物 (4)

第 11 表 3号土坑出土土器属性一覧 (1)

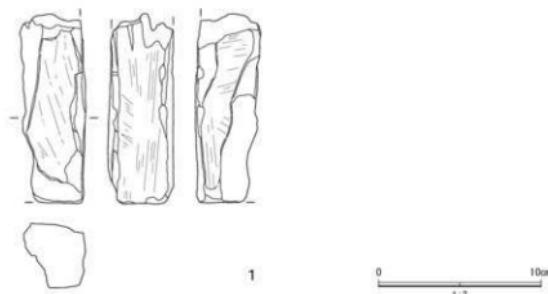
回収番号	出土地點	種類	器種	部位	焼成率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	構成	色調 (外面/内面)	備考
1	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	10	-	-	-	平縁突起。口縁部からY字に膨らむ付いた小さな突起を複数個。内面に複数の凹溝と溝状の溝を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R4/2 暗黄褐色 107R5/3 に、白い黄褐色	大木 8a 式
2	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	-	-	-	-	複数のY字形突起。口縁部より内側に複数のY字形突起を有する。内面に複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R3/2 黒褐色 107R4/2 暗黄褐色	阿玉台II式
3	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	10	-	-	-	平縁突起。口縁部平坦。口縁部より内側に複数のY字形突起を有する。内面に複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R3/1 黑褐色 107R4/4 黄褐色	阿玉台II式
4	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	10	-	-	-	複数のY字形突起。口縁部平坦。複数のY字形突起を有する。内面には複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R4/3 黄褐色 7.5R4/4 に、白い黄褐色	阿玉台II式
5	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	外表面は複数のY字形突起を有する。内面には複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R4/2 黄褐色	阿玉台II式
6	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R3/2 黑褐色 7.5R4/4 黄褐色	阿玉台II式
7	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	10	-	-	-	複数のY字形突起。口縁部平坦。複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R3/2 黑褐色 7.5R4/4 黄褐色	阿玉台II式
8	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	-	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R2/1 黑褐色 107R4/2 黄褐色	阿玉台II式
9	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	-	-	-	-	平縁突起。口縁部に複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R4/2 黄褐色 107R5/4 に、白い黄褐色	阿玉台II式
10	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	口縁 底面 腹面	20	-	-	-	複数のY字形突起。口縁部平緩。複数のY字形突起を有する。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R3/2 黑褐色 107R5/3 に、白い黄褐色	阿玉台II式
11	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	10	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R4/2 黑褐色 7.5R5/1 黑褐色	阿玉台II式
12	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	～	10 (底 部)	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R5/4 黄褐色	阿玉台II式
13	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R3/1 黄褐色 107R5/4 に、白い黄褐色	阿玉台II式
14	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R4/1 黄褐色	阿玉台II式
15	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R4/2 黄褐色	阿玉台II式
16	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	10	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	107R4/2 黄褐色	阿玉台II式
17	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	10	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	7.5R5/4 に、白い黄褐色 7.5R5/2 黄褐色	阿玉台II式
18	SK03 覆土	圓文 土器	深鉢	胴部	-	-	-	-	複数のY字形突起。内面には複数の凹溝と溝状の溝を有する。	白色粘土・チャート 粒・石英粒・雲母片	白 灰	5R3/1 黑褐色	阿玉台II式

第 12 表 3 号土坑出土土器属性一覧（2）

図版番号	出土地点	種別	器種	部位	埋作率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調 (外面／内面)	備考
19	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	破片	—	—	—	背面多角の構造する沈縁で区画。漆 絆爪型文、内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/1 黒褐色 7.5W5/4 にぶい褐色	阿玉台Ⅱ式。
20	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	10	—	—	—	隆縁と横模円形の区画。区画内は継縫 に舟縁文。模様する連續型文。或 伏沈縁を施し、隆縁を引く付け。内 面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/1 黑褐色 7.5W4/4 褐色	阿玉台Ⅱ式。
21	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	10	—	—	—	隆縁と横模円形の区画。区画内は継縫 の接合部に瘤の連續形文を施す。 内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W5/4 にぶい褐色 7.5W6/4 にぶい褐色	阿玉台Ⅱ式。 良好と同一個体。
22	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	破片	—	—	—	隆縁と横模円形に取り付け。輪底柱子細 の接合部に瘤の連續形文を施す。 内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/4 にぶい褐色 10W4/2 灰褐色	阿玉台Ⅱ式。 良好と同一個体。
23	SK03 埋土	圓文 土器	口縁 深鉢	口縁～ 胴部	10	—	—	—	口縁部以下に三条の次縁。その下板に 沈縁による三角形の区画。隆縁を楕丸。 その下板に多角の沈縁を下す。内面 ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/4 黑褐色 7.5W4/2 深褐色	阿玉台Ⅱ式。 内面糊付。
24	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	破片	—	—	—	隆縁を横走させ並行する波状沈縁を 施す。内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/2 にぶい褐色	阿玉台Ⅱ式。
25	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	破片	—	—	—	波状沈縁を施す。内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/4 にぶい褐色	阿玉台Ⅱ式。
26	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	胴部	破片	—	—	並行する沈縁を施す。底面内に溝続 型文。沈縁の下板に波状沈縁。そ の上部に燃余火を施す。内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	10W4/2 灰褐色 10W3/2 深褐色	大木 8a 式。	
27	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	口縁～ 胴部	破片	—	—	—	平縁浅鉢。口縁部と胴部の底が彎ら む。無文。内面丁寧等々。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W5/4 にぶい褐色	阿玉台Ⅱ式。
28	SK03-19	圓文 土器	深鉢	口縁～ 胴部	10	—	—	—	平縁浅鉢。口縁部長く下端に凹。口縁 部の側面を斜めに削り、底面を斜めに削 り、下位の二段階の下板に並行する舟 縫文。内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	10W4/2 灰褐色 10W5/4 にぶい褐色	阿玉台Ⅱ式。
29	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	口縁～ 胴部	破片	—	—	—	平縁浅鉢。口部部弧状。無文。内面 ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	10W4/1 にぶい褐色 10W5/2 にぶい褐色	阿玉台式。
30	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	口縁	破片	—	—	—	直面縁部の波状縁。円形容の要部。向 きやすく。口縁沈縁を施す。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/2 黑褐色	阿玉台Ⅱ式。
31	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	底部	10	—	10.8	2.1	底部外面網代縫。内面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	10W2/1 黑褐色	阿玉台式。
32	SK03 埋土	圓文 土器	深鉢	底部	破片	—	(5.8)	1.0	内外面ナダ。	白色粒子、チャート 粒、石英粒、雲母片	良好 好	7.5W4/4 褐色 7.5W4/1 黑褐色	阿玉台式。

第 13 表 3 号土坑出土石器属性一覧

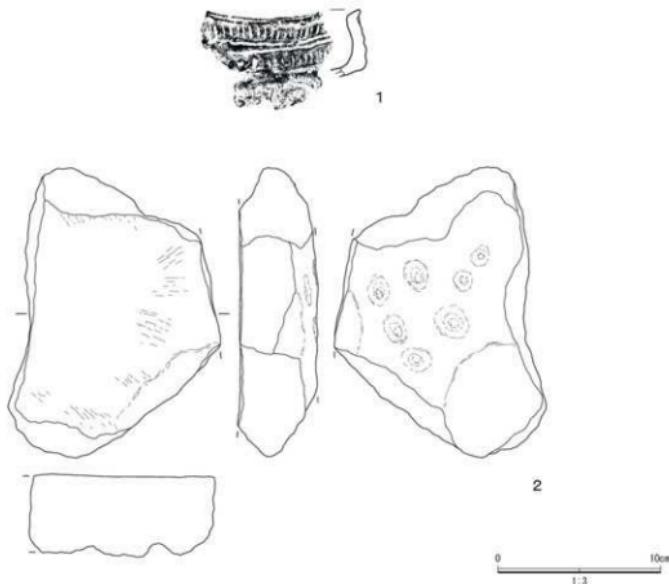
図版番号	出土地点	種別	器種	部位	埋作率 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
33	SK03 埋土	圓文時代 土器	磨石	—	完存	(9.4)	(9.4)	4.9	381.3	全面に磨り痕を確認できる。	安山岩。
34	SK03 埋土	圓文時代 土器	磨石・回石	—	完存	14.9	7.9	5.8	999.4	全面に磨り痕を確認できる。表裏面中央部に深い 溝がある。	安山岩。
35	SK03 埋土	圓文時代 土器	他の灰石・ 石器	—	—	(11.2)	18.3	5.3	1617.3	表面 9 ± 以上。裏面 5 ± 以上を逆内撫状に穿 る。	安山岩。



第 22 図 11 号土坑出土遺物

第 14 表 11 号土坑出土石器属性一覧

図版番号	出土地点	種別	器種	部位	埋作率 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
1	SK11 埋土	石製品	磨石	—	—	(11.6)	(4.0)	6.0	296.8	4 面が砥面。1 面がぼけ穴。	片端。



第 23 図 13 号土坑出土遺物

第 15 表 13 号土坑出土土器属性一覧

図版番号	出土地點	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	構成	色調 (外面／内面)	備考
1	SK13 埋土	調査 土器	直筒 筒形 瓶形	瓶形 瓶片	—	—	—	—	口縁直下 2 条の連続小形文を模毛。 底部文間に波線を 2 条施文。小突起 を貼り付けた。内面ナラ。	白色粘土・チヤート 粒・石英粒・藍母片	良 好	10YR4/3 にぶい黄褐色 10YR5/4 にぶい黄褐色	阿右台Ⅱ式 内面保付有

第 16 表 13 号土坑出土石器属性一覧

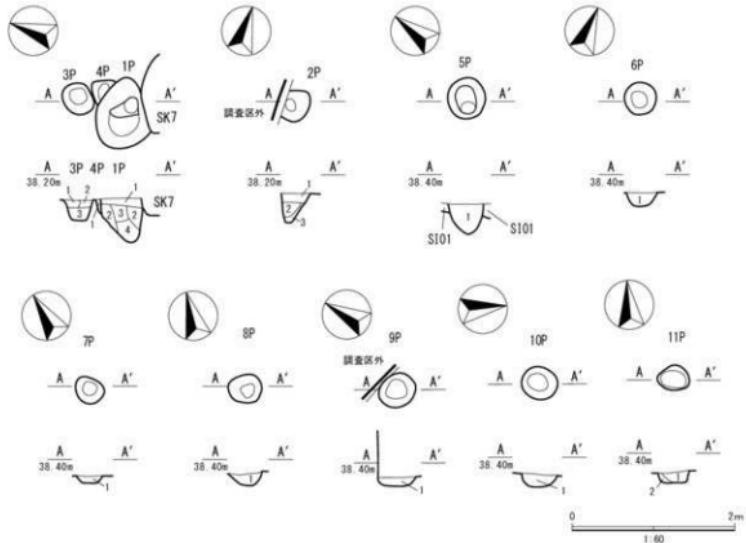
図版番号	出土地點	種別	器種	部位	残存率 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
2	SK13 埋土	調査 土器	錘の形石・ 石皿	—	—	17.5	11.8	4.7	1662.5	表面は、研磨痕で平滑。石皿として使用。逆凹溝状に 7ヶ所以上を逆内側状に彫つ。	砂質。

(6) ピット

調査区全体から 49 基のピットが検出された。分布は調査区北西側の 1 号竪穴建物跡周辺および調査区南東側に集中している。規則的な配置は確認されていない。1・18・27・31・45 号ピットから合計で 7 点、195.3 g の遺物が出土しているが、覆土の観察からほぼ埋没時の流入と考えられる。したがって大半のピットの詳細な時期は不明である。全てのピットに詳細な説明を加えると煩雑となってしまうため、平面図や断面図で説明に代えさせていただきたい。また、図示することができた 2 点の遺物は第 30 図および第 17 表にまとめて掲載する。1 は 27 号ピット出土の波状文が施される須恵器甕である。2 は 31 号ピット出土の土師器の常縦型甕である。



第 24 図 ピット分布図



1号ビット

- 1 10R3/3 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子（φ 0.5 cm）を微量含む。
- 2 10R3/3 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子（φ 0.5 cm）を少量含む。
- 3 10R3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームプロック（φ 1 cm）、ローム粒子（φ 0.5 cm）を微量含む。
- 4 10R3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子（φ 0.5 cm）を少微量含む。

2号ビット

- 1 10R3/2 始褐色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10R3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子を微量含む。
- 3 10R3/2 にぶ・黄褐色土 层 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に含む。

3号ビット

- 1 10R3/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子（φ 0.5 cm）を少量含む。
- 2 10R3/2 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームプロック（φ 1 cm）、ローム粒子（φ 0.5 cm）を少量含む。
- 3 10R3/4 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子（φ 0.5 cm）を微量含む。

4号ビット

- 1 10R3/3 始褐色土層 粘性をもち、縮まる。

5号ビット

- 1 10R3/4 始褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子を少量含む。

6号ビット

- 1 10R3/3 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム上、黒褐色土を少量含む。

7号ビット

- 1 10R3/4 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム上、黒褐色土を少量含む。

8号ビット

- 1 10R3/4 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム上、黒褐色土を少量含む。

9号ビット

- 1 10R3/4 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

10号ビット

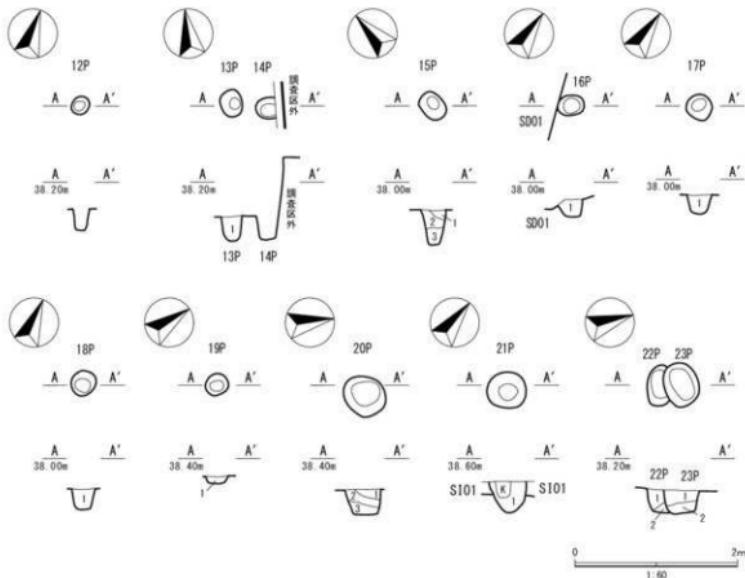
- 1 10R3/4 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム上、黒褐色土を少量含む。

11号ビット

- 1 10R3/3 始褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム上、少量含む。

- 2 10R3/4 黄褐色土 层 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

第 25 図 ビット (1)



13号ピット

1 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム土、黒褐色土を少量含む。

15号ピット

1 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1\text{ cm}$) を少量含む。

2 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{ cm}$) を少量含む。

3 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 2\text{ cm}$) を多量に含む。

16号ピット

1 10Y3/2 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム土を少量含む。

17号ピット

1 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

18号ピット

1 10Y2/1 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

19号ピット

1 10Y3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

20号ピット

1 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

2 10Y3/2 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

3 10Y3/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。

21号ピット

1 10Y3/4 黄褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{ cm}$)・ローム粒子を少量含む。

22号ピット

1 10Y3/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

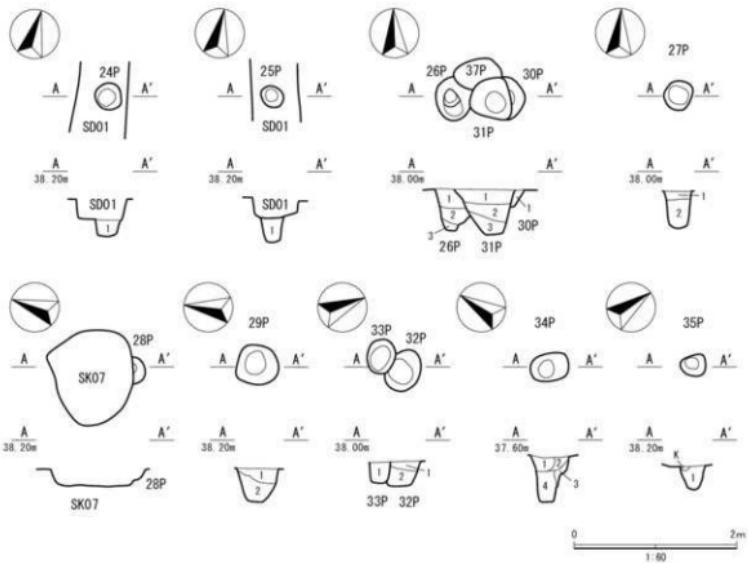
2 10Y3/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。

23号ピット

1 10Y3/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{ cm}$) を微量、ローム粒子を少量含む。

2 10Y3/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{ cm}$) を微量、ローム粒子を中量含む。

第 26 図 ピット (2)



24号ピット

1 10RE/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

25号ピット

1 10RZ/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

26号ピット

1 10RE/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。

2 10RE/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。

3 10RZ/4 にぶい 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まりに欠ける。ローム粒子を多量に含む。

27号ピット

1 10RE/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。

2 10RE/4 黒褐色土層 粘性をもち、やや縮まりに欠ける。ローム粒子を中量含む。

28号ピット

1 10RE/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、縮まる。ローム粒子を微量含む。

2 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) を少量含む。

30号ピット

1 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 3\text{cm}$) を少量、ローム粒子を中量含む。

31号ピット

1 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

2 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 3\text{cm}$) を少量、ローム粒子を多量に含む。

32号ピット

1 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

2 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 3\text{cm}$) を少量、ローム粒子を中量含む。

33号ピット

1 10RE/3 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 3\text{cm}$) を微量、ローム粒子を多量に含む。

34号ピット

1 10RE/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{cm}$)・ローム粒子を少量含む。

2 10RE/2 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

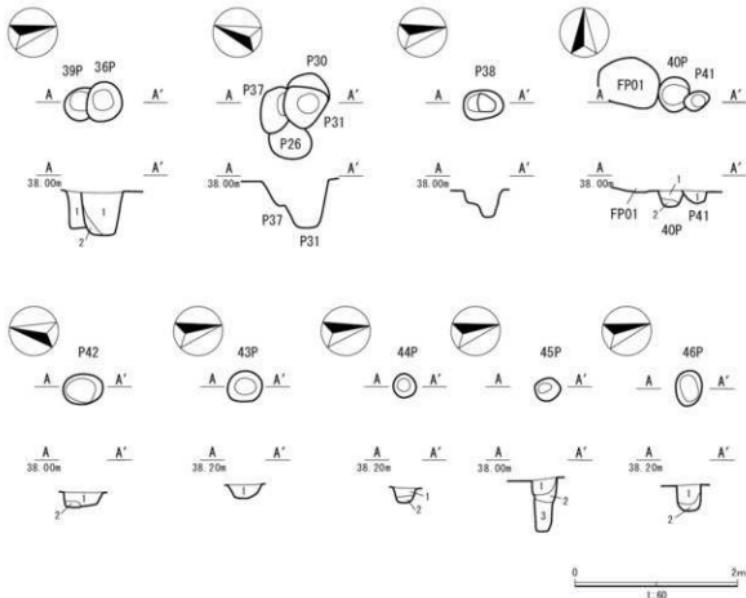
3 10RZ/3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。

4 10RE/4 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ロームブロック ($\phi 1 \sim 2\text{cm}$) を少量含む。

35号ピット

1 10RE/3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。

第 27 図 ピット (3)



36号ビット

- 1 10YR3/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。

39号ビット

- 1 10YR3/2 黒褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

40号ビット

- 1 10YR3/2 暗褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。

41号ビット

- 1 10YR3/3 暗褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。

42号ビット

- 1 10YR3/3 暗褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。

43号ビット

- 1 10YR3/3 暗褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を中量含む。

44号ビット

- 1 10YR3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を微量含む。
- 2 10YR3/3 にじいろ黄褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まりに欠ける。ローム粒子を多量に含む。

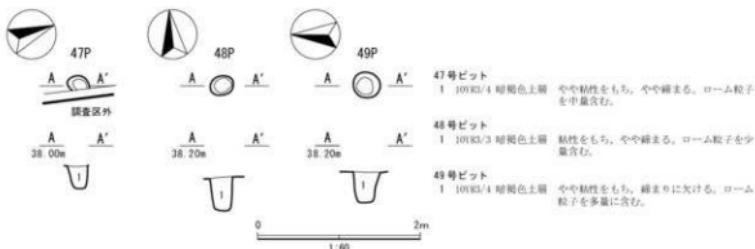
45号ビット

- 1 10YR3/2 黑褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4/3 にじいろ黄褐色土層 やや粘性をもち、やや縮まる。ローム粒子を多量に含む。

46号ビット

- 1 10YR3/4 暗褐色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に含む。
- 2 10YR4/3 にじいろ黄褐色土層 粘性をもち、縮まる。ローム粒子を多量に含む。

第 28 図 ビット (4)



第29図 ピット(5)



第30図 ピット出土遺物

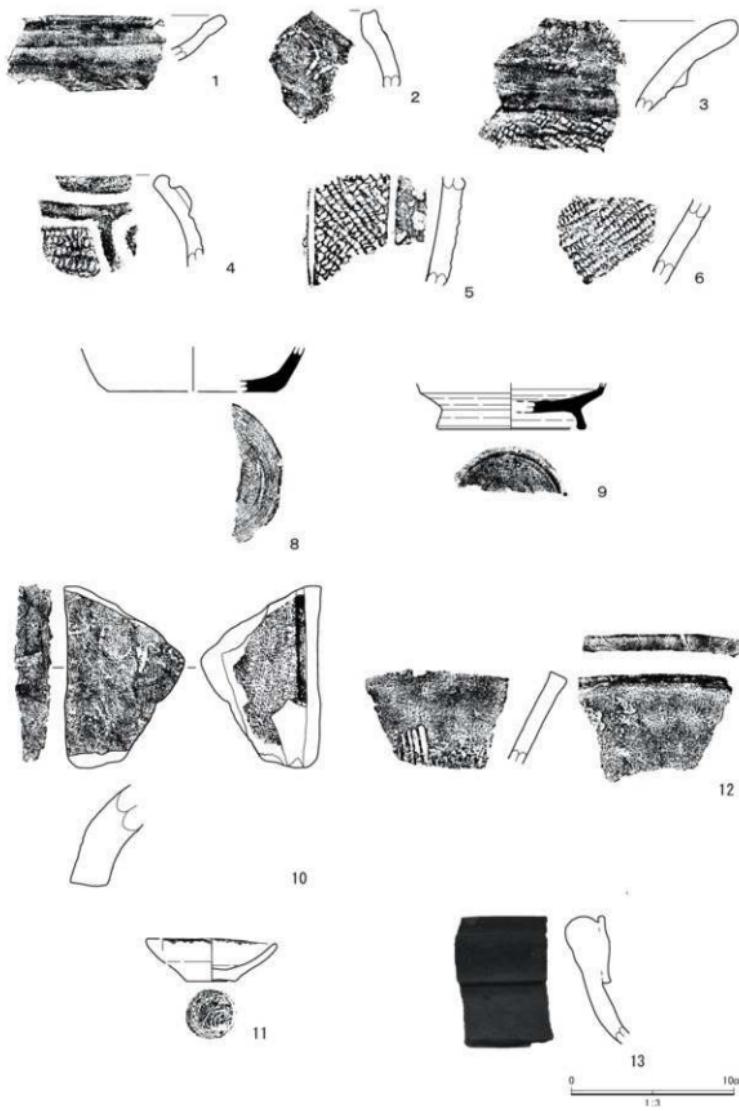
第17表 ピット出土土器属性一覧

図版番号	出土地点	種別	器種	部位	焼成率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調(外面/内面)	備考
1	2TP 覆土	灰陶	甕	口縁部	85	—	—	—	外面弦文状、内面ナデ。	白色粘土・チヤード粘土・石英粒	直射	314/1 灰色	
2	31P 覆土	土師	口縁部～腹部	10	(30.0)	—	丸瓦	常滑型。口縁部大きく外反、内外面ココナフ。蓋下に土師底産み。胎土外側斜方向へカケズ後ナデ。内面ナデ。	白色粘土・黑色粘土・石英粒	直射	303/4 に赤褐色		

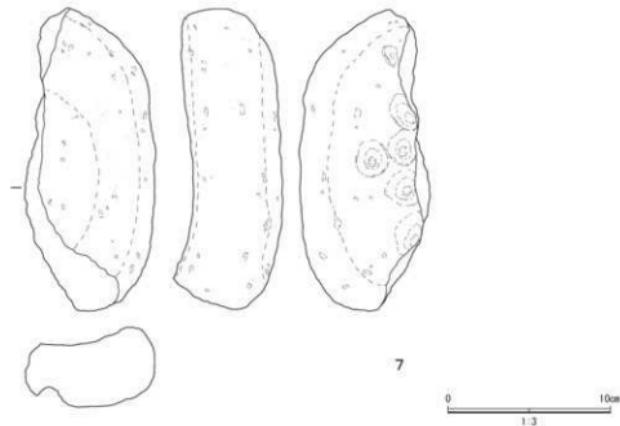
(7) 表土・遺構外出土遺物

ここで遺構の帰属時期以外の遺物や擾乱、表土から出土した遺物の中から代表的な遺物を図示していくこととする。該当する遺物は61点、3,483.5gを数え、1号井戸跡および表土からの出土が点数や重量の約半分以上を占める。時期は縄文時代中期中葉阿玉台式期から近世の陶磁器まで幅広く出土している。以下から各遺物に対して若干の説明を加えていく。1・2は表土出土の縄文時代中期中葉阿玉台II式土器である。1は無文浅鉢口縁部片、2は角押文が施される。3～6は表土からの出土で縄文時代中期後葉加曾利EIII式土器である。3は器面の摩耗が顕著である。4はキャリバー形の器形である。5は沈線間を磨り消している。6は単節の繩文が施される。7は1号井戸跡出土の安山岩製の蜂の巣石・石皿である。裏面5ヶ所が逆円錐状に穿たれる。8は表土からの出土で須恵器の环である。8世紀後半から9世紀前半の所産であろう。9は1号井戸跡出土の須恵器高台付环である。胎土の特徴から木葉下窯跡群産であろう。10は丸瓦の右側縁部である。凸面はヘラケズリ後ナデで調整される。11は表土からの出土で土師質土器皿である。口縁部内外面に黒色付着物が確認されており、灯明皿として利用されている。また底面に「|」の線刻が施される。器形から15世紀中葉から後半の所産と考えられる。12は表土からの出土で土師質土器の擂鉢である。内面に4条1単位の摺目が確認できる。13は表土からの出土で常滑焼の甕で口縁部である。その器形から16世紀前葉から中葉頃の所産と考えられる。

(小久)



第31図 遺構外出土遺物（1）



第32図 遺構外出土遺物（2）

第18表 遺構外出土土器属性一覧

図版番号	出土地点	種別	器種	部位	保存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調 (外面/内面)	備考
1	表土 表土	圓筒	口縁	—	10	—	—	—	口縁上端粗削れ。ナギ、口面丁寧なナギ。	白色粘土・チャート粒・石英粒・雲母片	直射 101R5/1	黒褐色	阿玉台II式。
2	表土 表土	圓筒	口縁	脚部	—	—	—	—	底状口縁深く、口唇部平坦。口縁外側に凹状の押突文が継続させる。	白色粘土・チャート粒・石英粒・雲母片	直射 7.5YR5/4	灰・褐色	阿玉台II式。
3	表土 表土	圓筒	口縁～脚部	—	10	—	—	—	口縁無文、下位縦帶を横走。原体不明で内文を記載。	白色粘土・チャート粒・石英粒	直射 7.5YR5/4	黒褐色	加賀利Ⅲ型。
4	表土 表土	圓筒	口縁	脚部	—	—	—	—	ナギリバタ型の半縫接体。口縁は口縁直上に疣状突起1条。陳錆で商賣文を施す。構造上は横方向に開口。長径部の内面と底面に明るい調査文無文。内面ナギ。	白色粘土・チャート粒・石英粒	直射 101R6/4	灰・褐色	加賀利Ⅲ型。
5	表土 表土	圓筒	口縁	脚部	—	—	—	—	内側に凹溝を施す状状文。灰釉。	白色粘土・チャート粒・石英粒	直射 101R6/4	灰・褐色	加賀利Ⅲ型。
6	表土 表土	圓筒	口縁	脚部	—	—	—	—	外表面研磨。調文を施す。内面ナギ。	白色粘土・石英粒・長石粒	直射 7.5YR6/4	灰・褐色	木曾下塗村系。
7	表土 表土	圓筒	口縁	脚部	—	—	—	—	内部内面回転ナギ。底部外周回転へク切り離し後未調整。	白色粘土・石英粒・長石粒	直射 7.5YR6/1	黑色	加賀利Ⅲ型。
8	表土 表土	環	体部	直通	10	—	(9.2)	(2.4)	—	—	直射 2.5YR6/1	黃灰色	木曾下塗村群。8世紀後半から9世紀前半。
9	深井 裏窓	裏窓	口縁	脚部	—	—	(9.0)	(2.6)	体部内面回転ナギ。底部外周回転へク切り離し後未調整。	白色粘土・チャート粒・石英粒	直射 3.5R5/2	灰褐色	木曾下塗村群。9世紀前半から10世紀前半。
10	表土 丸瓦	丸瓦	基部	—	10	長さ 31.5	幅 7.4	厚さ 2.5	—	—	直射 2.5YR6/1	黃灰色	木曾下塗村群。
11	表土 土鍋	土鍋	口縁	直通	60	(8.0)	2.6	3.6	口縁から体部内面外周切欠ナギ。底部外周回転へク切り離し後未調整。	白色粘土	直射 101R5/6	黃褐色	口縫部内外に平行打痕。直通。直通。15世紀中葉から後半。
12	表土 土鍋	土鍋	口縁	脚部	10	—	—	(5.3)	口唇部平坦。脚部外側ナギ。内面4条1単位の縦目を施す。	白色粘土・チャート粒・石英粒	直射 3.5R4/6	赤褐色	—
13	表土 板沿	板	口縁	脚部	—	—	—	—	口縫部・縫隙部に段。口縫部外側に折り返し。内外面ナギ。	石英粒・チャート粒	直射 3.5R3/2	暗褐色	常滑地。

第19表 遺構外出土土石器属性一覧

図版番号	出土地点	種別	器種	部位	保存率 (%)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
7	深井 一括	圓筒時代 石器	棒の先石・石皿	—	—	(10.5)	8.0	(5.5)	812.5	石抜切表面。面を大きく削ませ受け部を造る。棒の先石部。裏面を逆錐状に5ヶ所以上穿つ。	安山岩。

第20表 遺物計量表

第4章 総括

水戸市の北西部、桜川の北岸に広がる見和台地一帯は、旧石器から縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世の各時代にわたる多種多様な遺跡の分布で知られており、桜川を挟んだ南側の微高地には中世の大規模な平城として著名な河和田城跡が現存する。坪遺跡は桜川を間近に望む台地の南側縁辺部から中寄りに展開しており、これまでに行われた35次にわたる発掘調査で、縄文時代中期を中心にして、古墳、奈良、平安、中世、近世に至る遺構・遺物の出土が確認されている。調査はいずれも部分的であり、遺跡の概要については不明な点が多いが、本章では今回の調査の成果を概観し、坪遺跡の全体像解明に向けての検討材料としたい。

I. 土地利用の変遷について

今回の調査は本遺跡の中央やや北西寄りの第36-2地点を対象としたものであり、緩やかに傾斜する調査区の面積は246 m²であった。調査区内には大きな木の根が点在し、調査条件および遺存状況は決して良好とはいえないが、約20日に及ぶ調査の結果、縄文時代中期の堅穴建物跡1軒、平安時代以降の溝跡1条、中世の井戸跡1基の他、縄文時代の屋外炉1基、縄文時代から近世までの土坑13基、ビット49基を検出することができた。これまで本遺跡では旧石器時代に属する遺構・遺物は未検出であったが、本地点でも当該期の遺構・遺物を確認することはできなかった。以下では、本地点を舞台にした土地利用の変遷を概観したい。

1. 縄文時代

本地点でもっと多くの遺構・遺物が確認された時期であり、堅穴建物跡1軒、屋外炉1基、土坑3基、屋外ビットなどが検出されている。堅穴建物跡は調査区の北西側に位置し、長軸約480 cm、短軸約430 cmの隅丸方形形状を呈する。壁面や貼り床面の多くは擾乱のために削平されており、炉跡や周溝なども不明である堅穴建物跡内からは阿玉台II式土器や加曾利EII式土器が出土している。いずれも小片であり、遺構の時期の特定は難しいが、隅丸方形に近いという平面形を考慮すると阿玉台式期の所産であった可能性が高い。本遺跡東方の若林遺跡では第1地点の調査で阿玉台式期の堅穴建物跡が1軒検出されているが、本例が長軸約440 cm、短軸約420 cmの隅丸方形プランであることも以上の考えを裏付ける資料といえる。

屋外炉は調査区の南側に単独で分布する。全体に擾乱が激しいが、長軸約78 cm、短軸約59 cm以上、深さ約6 cmの不整橈円形を呈する地床炉であり、内部には焼土粒や被熱したロームブロックが堆積している。覆土や遺構のあり方などから縄文時代の所産と考えられるが、共伴土器はみられず、正確な時期は不明である。

当該期の土坑は調査区の北側(2・3号)と南東側(13号)から合計3基検出されている。いずれも断面フラスコ状を呈する大型の土坑であり、貯蔵穴としての利用が考えられる。出土土器から阿玉台II式期の所産とみられる。ビットは調査区全体で49基検出されてい

る。縄文時代から近世にかけての所産と考えられるが、擾乱が激しく、個々の時期の特定は難しい。

縄文土器の圧倒的多数は阿玉台式土器で占められており、加曾利E式土器は少ない。これ以外に中期の大木式土器の出土が少量確認されている。石器の出土は少ないが、その中では磨石や回石、さらに石皿や蜂の巣石などの比較的大形例の出土が目立つ。蜂の巣石は石皿を転用したものがほとんどである。この他の例としては削器、R・Fなどがある。

2. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構としては溝跡1条、土坑1基が検出されている。溝跡は調査区を北側から南側に走る。推定全長17.66m以上、上幅約44~70cm、底幅約23~52cm、深さ約18~24cmを測り、断面は逆台形状を呈する。付帯施設はみられないが、溝内からは木葉下窓跡群産の須恵器壺や甕が出土しており、8世紀後半から9世紀前葉の区画溝と思われる。

3. 中・近世

当該期の遺構としては井戸跡1基、土坑9基が検出されている。49基のピットの中にも中世から近世にかけての例が少なからず含まれていたものと思われる。井戸跡は調査区のほぼ中央部に位置し、長軸約196cmの梢円形を呈するものと思われる。断面は漏斗状に近いが、底面は崩落の危険があるため未確認である。付帯施設は検出されていない。確認できた井戸の上部からは縄文中期土器、蜂の巣石・石皿、須恵器の高台付壺や蓋、擂鉢、土師質土器皿、内耳土鍋、陶器の天目茶碗や皿、硯などが出土しており、その重量は1,354.4gを量る。16世紀前半から中葉の所産と考えられる。9基の土坑は調査区の広い範囲に散在している。このうち7号土坑は調査区の南側に位置する。長軸約118cm、短軸約105cm、深さ約20cmの不整隅丸方形の土坑であり、断面は逆台形状を呈する。内部からは須恵器壺、土師器甕などが出土しているが、性格は不明である。その他の土坑も明確に共伴する遺物が少ないと中世以降の所産と広くとらえるのが妥当と考えるが、性格は不明である。

本遺跡の第3地点や第14地点では中世の掘立柱建物跡や地下式坑の分布が確認され、桜川対岸の微高地に立地する河和田城との関連が注目されている。第2章でも言及したが、河和田城は1337(建武4)年、大掾氏の家臣・鍛治彈正貞国が水戸城の支城として築城したと伝えられる、中世の本地域を代表する輪廓式の平城である。鍛治彈正貞国築城後、江戸氏やその家臣である春秋氏の支配を経て、1590(天正18)年には佐竹義宣の水戸攻めによって落城に至るが、東西約510m、南北約600mに及ぶ広大な範囲には現在も四重の土塁や二重堀などが良好な形で残され、往時の面影を偲ぶことができる。本遺跡の掘立柱建物跡や地下式坑、とりわけ地下式坑の存在が注目されるのは、それが中世仏教の強い影響の下に発達した、武士や禪僧などを対象とした特異な墳墓であったといわれるからであり、そうした地下式坑の造墓集団や被葬者のあり方を考えるならば、中世の本遺跡と河和田城との間には強いつながりがあったとみるのが自然である(高尾 1991)。本地点の調査では未確認に終わったが、壙遺跡の南側に隣接する経塚遺跡や東方の若林遺跡で中

世の地下式坑が発見されていることは示唆的であり、中世の平城としては破格の規模を誇る河和田城に関連するエリアは、現在想定されている以上の広がりを有していた可能性が高い。

先のピットを除くと、近世に伴う明確な遺構は不明であり、当該期と思われる遺物も、表土から出土した陶磁器が少量出土しているにすぎない。

II. 縄文時代中期のフラスコ状土坑について

本地点では3基のフラスコ状土坑が検出されている。いずれも開口部の長軸100cm以上、底面の長軸200cm前後、現存する深さ60cm以上の大型の土坑である。下部が広く、上部がすぼまる特徴的な断面などから屋外の貯蔵穴としての用途が指摘されるフラスコ状土坑や袋状土坑は、本地域では群集して分布するのが一般的であり、集落全体による貯蔵食料の共同管理の姿を示している。本地点の3基は調査区の北側と南東側に散在していたが、前出の若林遺跡では密集分布する30基以上のフラスコ状土坑や袋状土坑、すなわち屋外貯蔵穴が発見されており、阿玉台式期から加曾利E式期という時間的位置でも本地点との共通性をうかびあがらせている。若林遺跡における当該期の集落の規模や構成は不明であるが、前出の貯蔵穴が桜川に近い台地縁辺側である調査区南側に群集するのに対し、唯一の発見例である阿玉台式期の1号竪穴建物跡は台地奥寄りの調査区北側に分布していることは、両者の位置関係を考える上からもきわめて示唆的であるといってよい。本地点発見の竪穴建物跡が台地奥寄りの調査区北西側に分布することも、同様の事情を示すものなのかどうか、きわめて注目されるところである。

若林遺跡では貯蔵食料と思われる根茎類や堅果類などの植物遺体は検出されなかつたが、貯蔵穴の内外からは多量の磨石や凹石、蜂の巣石・石皿が出土している。これらの石器類は、本地点でも貯蔵穴の内外で確認されたものであり、両遺跡を通して認められる石器組成の共通性に驚くが、さらに注意されるのは以上の石器類がいずれも縄文時代を代表する植物質食料の加工工具であったという事実である。見和台地を舞台にした当該期における植物利用活動の活発さを裏付けるものであり、獲得された植物質食料に対する加工あるいは保存技術の進展が、中期集落の発展を支える重要な土台となっていたことは間違いない。

貯蔵穴の内部からは、しばしば完形あるいは略完形の土器が出土する。この中には一括廃棄された例以外に、堅果類などを収納した例もあり、貯蔵穴の具体的な利用法を考える上で格好の材料を提供している。一方、役目を終えた貯蔵穴が単なるゴミ捨て場にとどまらず、埋葬施設に転用される場合も少なからず存在しており、底部を欠いた非実用的な土器や装飾品などの副葬品に加えて実際に埋葬された人骨の発見例も古くから報告されている。本地点では、残念ながらそうした特徴的な遺物の出土はみられなかったが、坏遺跡の全体的な広がりを考えると、今後の調査の進展に期待したい。

(小久)

参考文献

- 浅井哲也
1991 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）」『研究ノート』1号 財団法人茨城県教育財團
1992 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート』2号 財団法人茨城県教育財團
- 伊藤千洋・高野恒一
・渥美賢吾・額賀輔
井上義安・鈴木浩子
1996 『水戸市城跡（第16地点）一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市埋蔵文化財調査報告第53集 水戸市教育委員会 テイケイトレード株式会社
- 茨城県立歴史館
江戸出土陶磁器研究
グループ
小川将之・間口慶久
・川口武彦・新垣清貴
斎藤弘道
坂口 隆
高野浩之・米川暢敬
1994 『学術調査報告書－4 茨城県における古代瓦の研究』
1992 『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題』I 資料集
- 水戸市史編纂委員会
南 秀行
三輪孝幸・新垣清貴
・川口武彦・間口慶久
1996 『江戸氏の發展』『内原町史』通史編 内原町
2007 『城跡（第3地点）－ヴィヴィアンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市埋蔵文化財調査報告第8集 水戸市教育委員会 株式会社グリーン・ハウジング 株式会社地域文化財コンサルタント
- 2006 『茨城県立歴史館叢書9 茨城県の繩文土器』茨城県立歴史館
2003 『繩文時代の墓穴の研究』ミュゼ
2014 『城跡（第18地点）－コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市埋蔵文化財調査報告第62集 水戸市教育委員会 株式会社セブン－イレブン・ジャパン 株式会社地域文化財研究所
- 1963 『水戸市史』上巻 水戸市
2007 『城跡（第4地点）－プランタンコリースII建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市埋蔵文化財調査報告第9集 水戸市教育委員会 （株）日本窯業史研究所
- 2011 『茨城県中世考古学の最前線～編年と基準資料～』茨城県考古学協会シンポジウム
1991 『第IX章第3節 中世の葬地－段切り状遺構』『五段田遺跡』東京都板橋区五段田遺跡調査会

写 真 図 版



調査区北側完掘状況（北西より）



調査区南側完掘状況（西より）



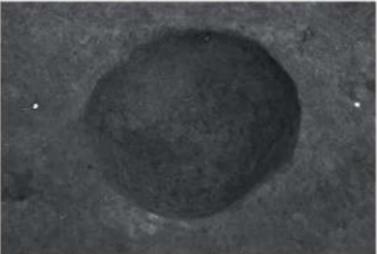
1号竖穴建物跡完掘状況（西より）



1号竖穴建物跡土層断面A～A'（南東より）



1号竖穴建物跡土層断面B～B'（南西より）



1号竖穴建物跡 1号ピット完掘状況（南西より）



1号竖穴建物跡 2号ピット完掘状況（南東より）

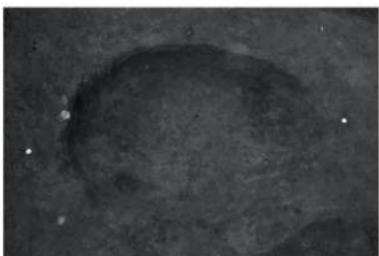


1号竖穴建物跡 3号ピット完掘状況（東より）

図版 2



1号竪穴建物跡 4号ピット完掘状況（南より）



1号竪穴建物跡 5号ピット完掘状況（南より）



1号竪穴建物跡 6号ピット完掘状況（東より）



1号竪穴建物跡 7号ピット完掘状況（西より）



1号竪穴建物跡 8号ピット完掘状況（南より）



1号竪穴建物跡 9号ピット完掘状況（西より）

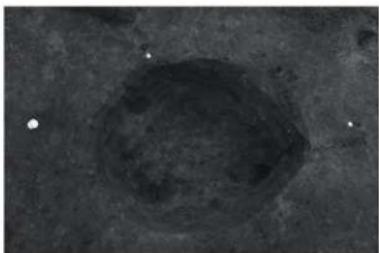


1号竪穴建物跡 10号ピット完掘状況（北より）

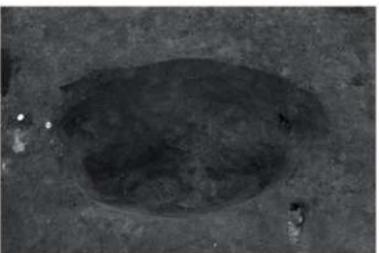


1号竪穴建物跡 11号ピット完掘状況（北より）

図版3



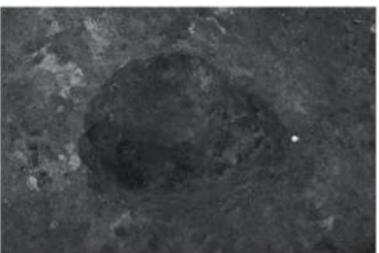
1号堅穴建物跡 12号ピット完掘状況（北より）



1号堅穴建物跡 13号ピット完掘状況（北より）



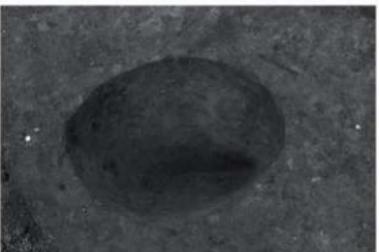
1号堅穴建物跡 14号ピット完掘状況（南より）



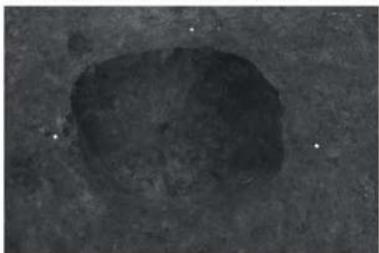
1号堅穴建物跡 15号ピット完掘状況（南より）



1号堅穴建物跡 16号ピット完掘状況（西より）



1号堅穴建物跡 17号ピット完掘状況（南より）



1号堅穴建物跡 18号ピット完掘状況（南より）



1号堅穴建物跡 19・20号ピット完掘状況（北より）

図版 4



1号竪穴建物跡 21号ピット完掘状況（南西より）



1号竪穴建物跡掘り方土層断面 A～A'（南東より）



1号竪穴建物跡掘り方土層断面 B～B'（南西より）



1号溝跡北側完掘状況（南より）



1号溝跡南側完掘状況（南より）



1号溝跡土層断面 A～A'（南より）

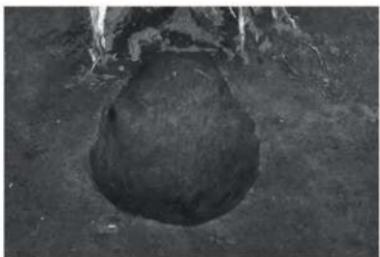


1号溝跡土層断面 B～B'（南より）



1号溝跡土層断面 C～C'（南より）

図版5



1号土坑完掘状況（西より）



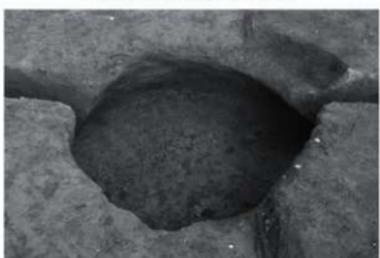
1号土坑土層断面（西より）



2号土坑完掘状況（東より）



2号土坑土層断面（西より）



3号土坑完掘状況（西より）



3号土坑土層断面（南より）



4号土坑完掘状況（西より）

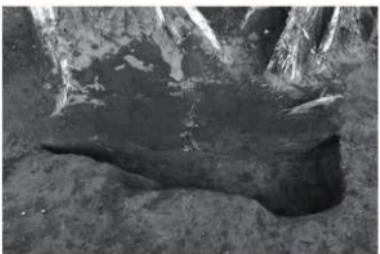


4号土坑土層断面（西より）

図版 6



5号土坑完掘状況（西より）



5号土坑土層断面（西より）



6号土坑完掘状況（北より）



6号土坑土層断面（北より）



7号土坑・1・3・4・29・50号ピット完掘状況（西より）



7号土坑・1号ピット土層断面（西より）



8号土坑完掘状況（南より）



8号土坑土層断面（南より）



9号土坑土層断面および完掘状況（東より）



10号土坑完掘状況（北西より）



10号土坑土層断面（北より）



11号土坑完掘状況（西より）



11号土坑土層断面（北西より）



12号土坑土層断面および完掘状況（西より）



13号土坑完掘状況（南より）



13号土坑土層断面（南東より）

図版 8



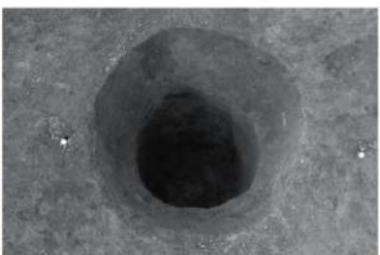
1号井戸跡土層断面および完掘状況（南より）



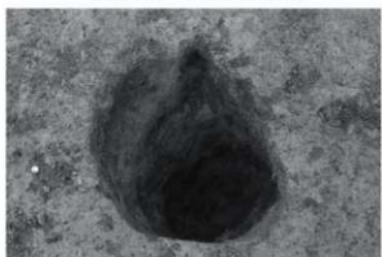
1号屋外炉完掘状況（北東より）



1号屋外炉土層断面（東より）



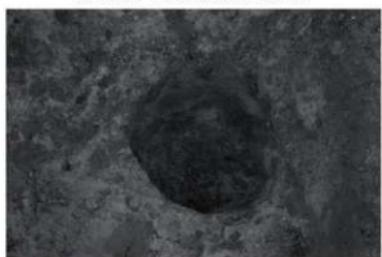
6号ビット完掘状況（南より）



13号ビット完掘状況（南より）



15号ビット完掘状況（南西より）

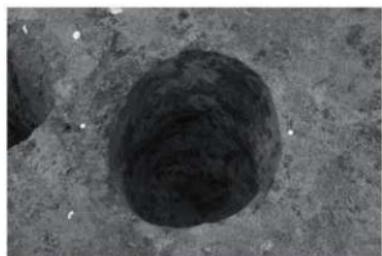


24号ビット完掘状況（南より）



25号ビット完掘状況（南より）

図版 9



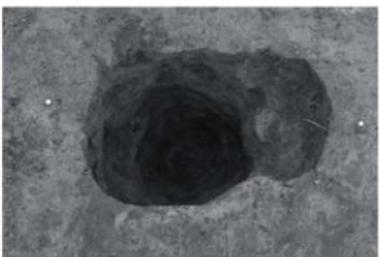
27号ビット完掘状況（北より）



29号ビット完掘状況（西より）



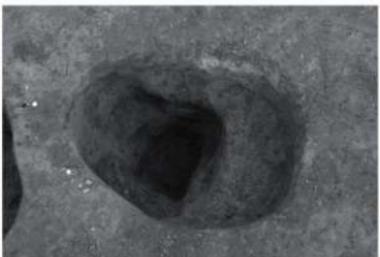
26・30・31・37号ビット完掘状況（北より）



34号ビット完掘状況（南西より）



36・39号ビット完掘状況（西より）



45号ビット完掘状況（西より）



49号ビット完掘状況（西より）

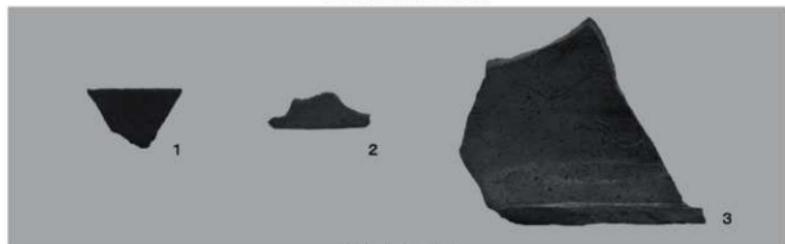


テストビット土層断面（東より）

图版 10



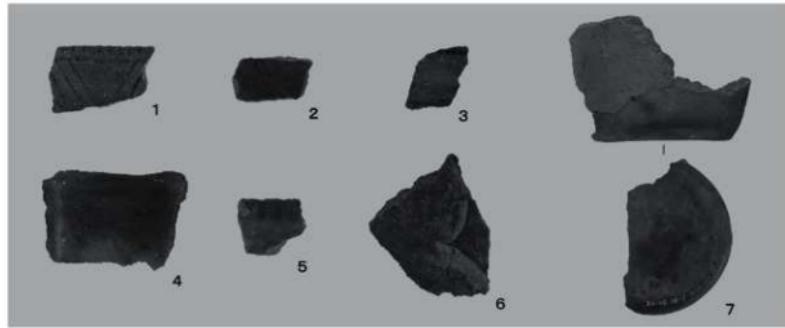
1号竖穴建物跡出土遺物



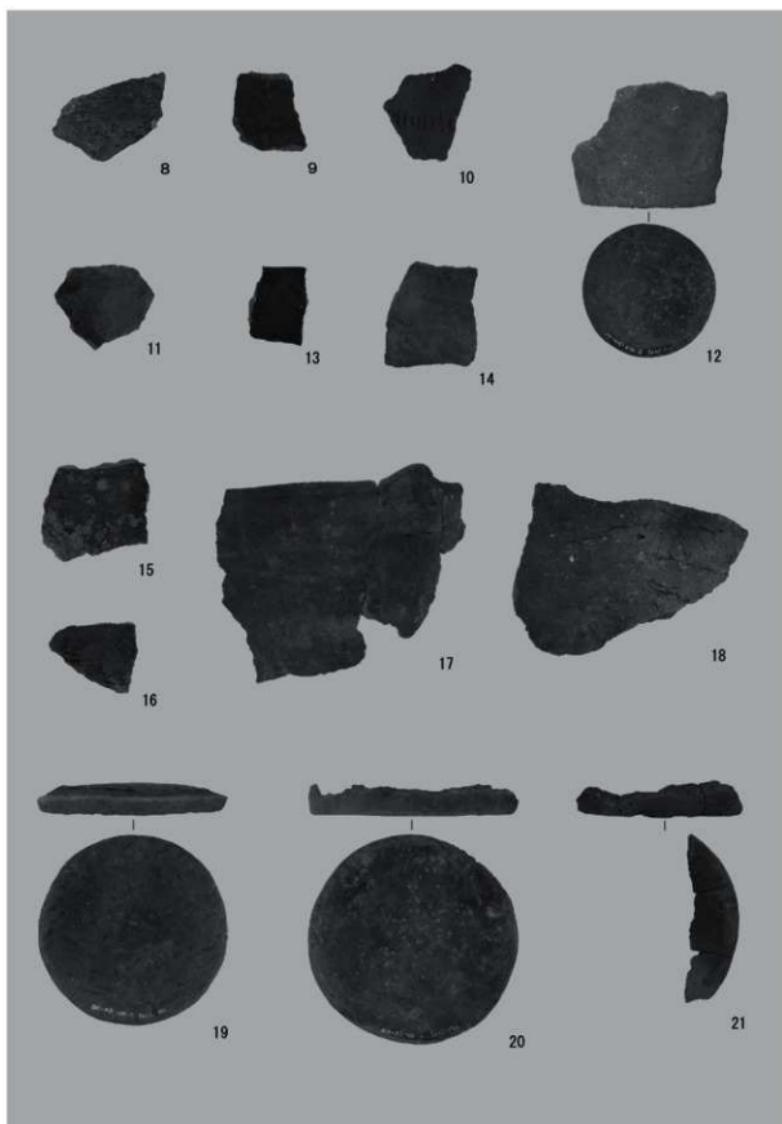
1号溝跡出土遺物



1号井戸跡出土遺物

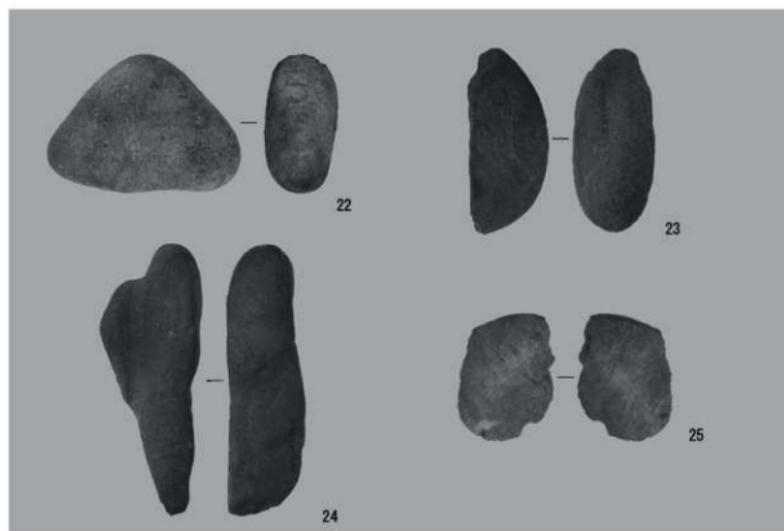


2号土坑出土遺物（1）

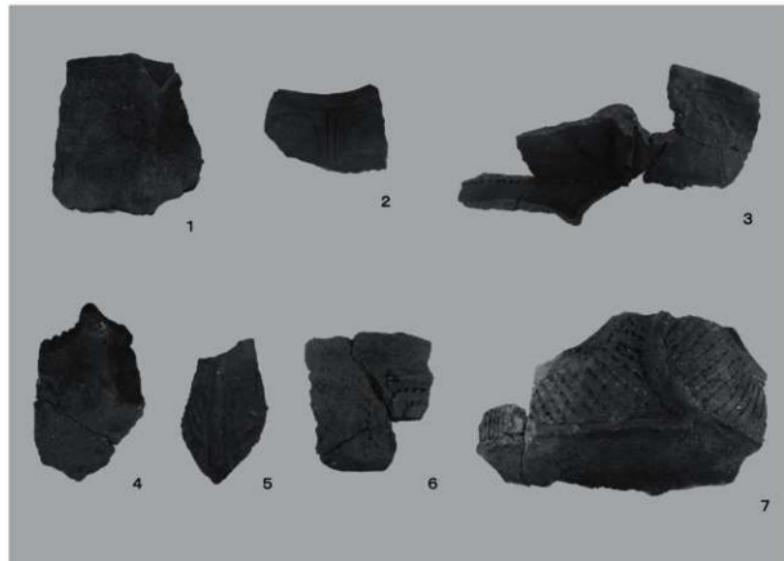


2号土坑出土遺物（2）

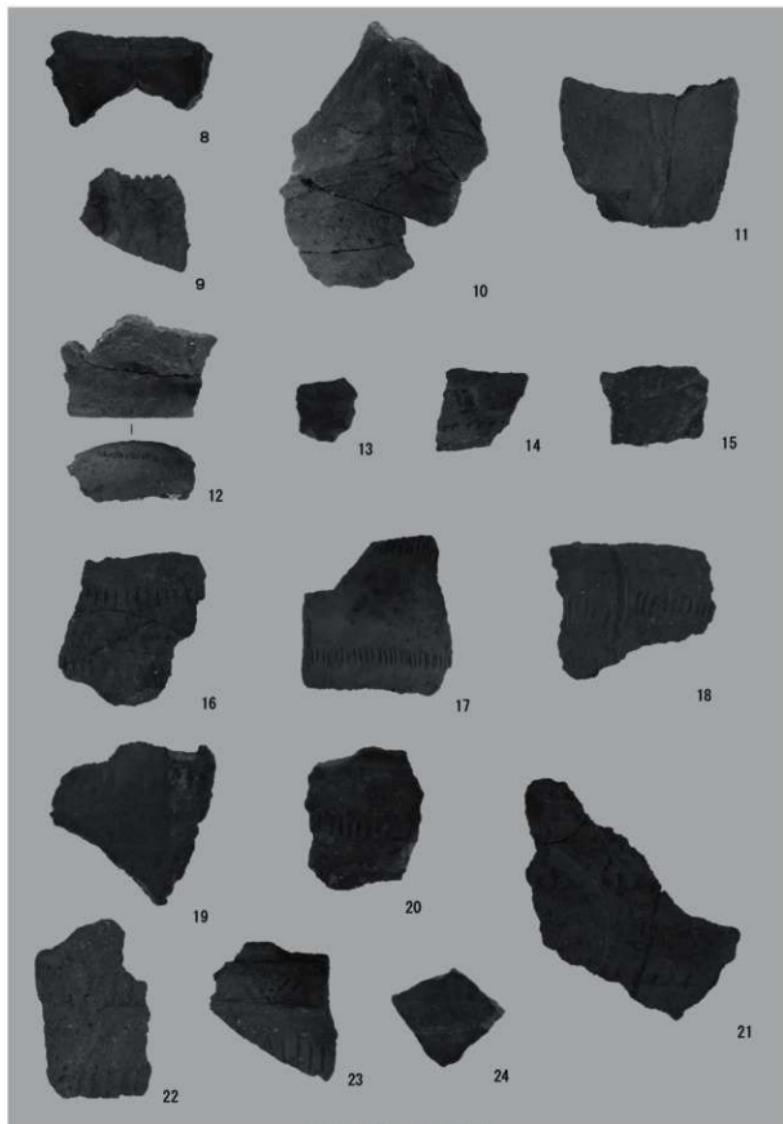
图版 12



2号土坑出土遗物（3）

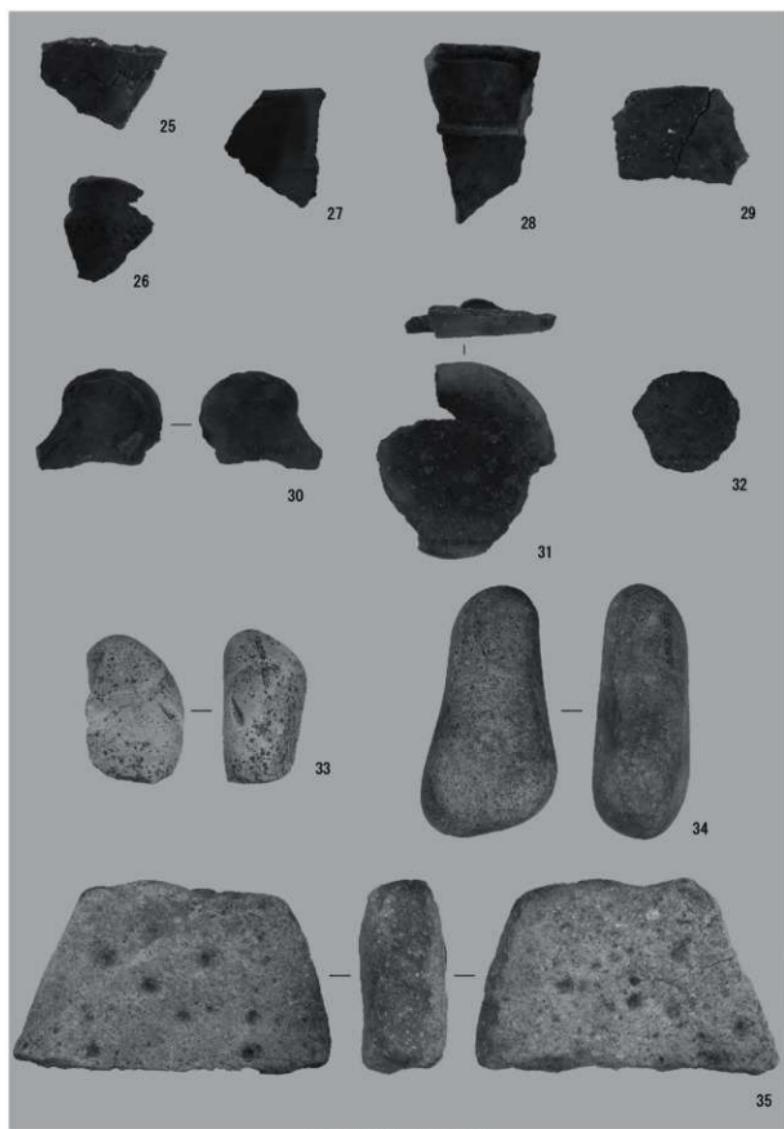


3号土坑出土遗物（1）

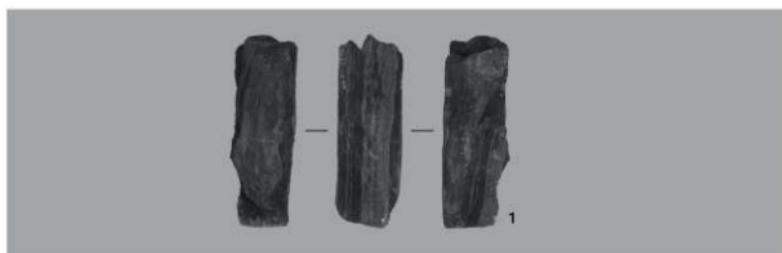


3号土坑出土遺物（2）

图版 14



3号土坑出土遗物（3）



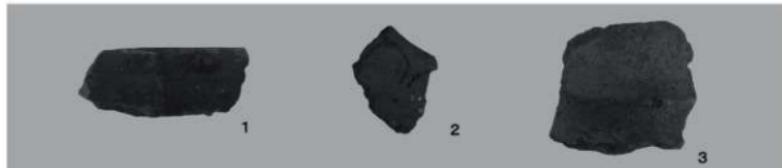
11号土坑出土遺物



13号土坑出土遺物



ピット出土遺物



遺構外出土遺物（1）

图版 16



遗構外出土遺物（2）

報 告 書 抄 錄

ふりがな	あくついせき (だいさんじゅうろくちてんにじ)							
書名	坪遺跡（第36地点2次）							
副書名	クリニック建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第123集							
編集者名	小久顕治・新垣清貴							
著者名	小久顕治・新垣清貴							
編集機関	水戸市教育委員会							
所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1丁目4番1号 ☎ 029-224-1111							
発行年月日	2020（令和2）年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 遺跡 番号	東経 。	調査期間	調査面積	調査原因	
あくついせき 坪遺跡	いばらきけんみとしむら 茨城県水戸市河 内町里のうち 和田1丁目1640-1 ほか 外	201	036	36° 22' 54"	140° 24' 41"	2020.4.7 ～ 2020.4.28	246 m ²	クリニック 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
坪遺跡	集落跡	調文時代	堅穴建物跡1軒、 土坑3基、屋外炉1基		土器、石器	今回の発掘調査では堅穴建物跡1軒、土坑13基、溝跡1条、井戸跡1基、屋外炉1基、ピット49基が検出された。このうち堅穴建物跡や土坑3基は調文時代中期中葉阿玉台式から後業加曾利E式期の所産と考えられ、阿玉台II式期の遺物が出土した3基の土坑はフラスコ状を呈する。出土遺物も当該期が大半を占め、活発な生活の痕跡が伺える。その他、奈良、平安時代の区溝跡と考えられる溝跡、16世紀前葉から中葉の埋没と考えられる井戸跡などが検出されている。この井戸跡から天日茶碗や内耳土鍋などが出土しており、田舎に位置する河和田城との関連を伺わせる貴重な資料となった。		
		奈良時代 ～ 平安時代	構跡1条、土坑1基		土師器、 須恵器、瓦			
		中世以降	井戸跡1基、土坑9基、 ピット49基		陶器、磁器、 土師質土器、 炉器、石製品			

項目	遺物の取り扱い
水洗い	すべて行った。
注記	機械と手書きを併用した。
接合	接合は必要に応じて最小限行った。
実測	遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、検索が可能なように作成した。合計1冊（綴り）
遺物保管方法	出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記した。 なお、未使用分については種別毎に分類、収納した。

水戸市埋蔵文化財調査報告 第123集

坏遺跡（第36地点2次）

—クリニック建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

令和2年12月28日発行

発行／水戸市教育委員会
株式会社ラクロ

印刷／関東図書株式会社

『坪遺跡（第36地点第2次）—クリニック建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』正誤表

ページ	訂正前	訂正後
2	246 m ²	248 m ²
9	第3図 坪遺跡の範囲と既往の調査地 点位置図 (④が2つ重複)	第3図 坪遺跡の範囲と既往の調査地 点位置図 (②と⑬の上の④を③に訂正)

